

評訟法講義 第一卷

寫本

評訟法講義

第五卷七十一號

第十卷

二冊內

第 二	第 一 架	第 五 號
--------	-------------	-------------

司法省  
第八〇號  
寄贈圖書文庫

4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31





おアリナト

B870

B1-6ab

5.3.4



夜  
茅

訴訟法會議筆記

七年四月廿



司法省



B500  
B 3  
1 a

訴訟法會議筆記 七年四月十四日

第二章 下等裁判所ニ呼出ス事

第五十九條 人推ノ事ニ付テハ被告人其住所ノ  
一 裁判所ニ呼出サル可シ若シ其住所ノ知レサル  
一 時ハ寄居スル地ノ裁判所ニ呼出サル可シ  
人推トハ專ラ身分ニ関シタルト云フニ非ス  
總テノ貸借授與等ノ義務人ニ對スルモノナリ  
物ニ對スルモノニ非ス其目的ノ人ニアルト物  
ニアルトテ區別シタル名ナリ  
原告人ノ住所ニ被告人ヲ呼出ス時ハ被告人ニ  
於テ多少ノ難儀ヲ蒙リ且種々ノ弊害ヲ生シ其  
事實ノ取調ニモ不都合多シ故ニ被告人ノ住所  
ニ呼出スナリ



譬へハ東京人ニテ長崎ノ人ハ金ヲ貸タリト訴  
フルモノアラシ其真偽知ル可カサルニ被告  
人東京へ呼出スニ万一詐偽ナルハ被告  
多クノ費ヲ掛ルナリ依テ原告人ノ方ヨリ被告  
人ノ地へ往クニナレハ原告人ニ於テ右等ノ  
詐偽ヲ言フヲ得ス被告人モ無益ノ害ヲ蒙ル  
トナシ故ニ被告人ノ所ニ往クヲ原則ト極メ  
タリ  
住所ヲ知レサルトアルハ住所ノ定マサル時ト  
スル方然リ  
原被告双方ノ住所隔絶スルカ或ハ故障アリテ原  
告人自カラ行クヲ得サル時ハ被告人住所ノ代  
書人ニ申送り之レニ托シテ訴訟ヲ為ス其原告

人ハ已レノ住所ニ居テ済ムナリ  
若シ被告人数人アル時ハ原告人ノ扶ニ從ヒ其  
中一人ノ住所ノ裁判所ニ呼出サル可シ  
被告数人アルトキ数裁判所ニテ裁判セハ各裁  
判各異アリテ債主ノ際ニ不都合ヲ生ス故ニ原  
告人ノ撰ミニテ一ノ被告人ノ所ニ於テス  
物推ノ事ニ付テハ其物件所在ノ地ノ裁判所ニ呼  
出サル可シ

物推トハ動産不動産ノ物件ニ對シテ云フナ  
レ共此ニハ不動産ノミヲ以テ云ハリ  
譬へハ土地ヲ已レノ有トスルノ訴或ハ其入額  
ヲ已レニ收納セシトスル訴等是ナリ又土地侵  
奪ノトニ付テ其地ヲ取返ス訴ハ即チ物推ナリ



然レ凡 誓ハハ失火ニテ土地ノ経取紛乱シタル  
時其経取ヲ定ムルニ隣地ノ申合セヲ要スルニ  
其隣地ノ者之ヲ承知セサル時之ヲ承知セシム  
ルノ訴ハ人推ニ属ス  
又甲長崎ニテ乙ニ千坪ノ地ヲ賣タリ乍去其地  
ハ長崎ノ何ノ處ト定マラサルナリ右ヲ違約シ  
テ渡サ・ル時之ヲ渡サシムハキ訴ハ人推ナリ  
近時佛蘭西ニ一例アリ巴里ノ人カルベリ山ニ  
テ土地ヲ引渡スヘキ契約ヲ為シタリ然レ其契  
約ニ引渡スヘキ土地ヲ確定セス只「アルゼリ山ノ  
山ノ手ニテ土地千坪ヲ渡スヘシトノ「ナリシ  
カ後ニ其人分散トナリ終ニ其義務ヲ行フ「能  
ハス依テ被告人ノ住所ハ訴ハ裁判トナリタリ

是亦土地ニ関スル「ナレ共人推ニ属スレハナ

動産ノ物件ニ付テハ何レノ處ニ呼出スヘキヤ  
此條ニ記スヘキニ之ヲ記セス是レ法律ノ未タ  
尽サ・ル所ナリ本條ノ下ニ動産ノ物件ハ被告  
人所在ノ裁判所ニ呼出ス「シ増補スヘシ  
人推ト物推ト相混シタル事ニ付テハ其物件所在  
ノ地ノ裁判所又ハ被告人住所ノ裁判所ニ呼出サ  
ル可シ

人推ト物推ト混シタルトハタトヘハ家屋賣渡  
ノ契約ヲ取極メタル上ハ其家ヲ現ニ受取ラス  
ト雖凡即日ヨリ買入タルモノ所有主ナリ然ル  
ニ賣リ主引渡スヘキ期日ニ其家ヲ明ケ渡サ



ルキノ訴ハ人権ナリ又其家屋ヲ渡サスシテ自  
終ニ使ヒタルニ付其家屋ノ所有ノ権ヲ訴フル  
ハ物権ナリ

右ノ二権ヲ混スルキハ原告人ノ撰ニ任カセ  
物件所在ノ地ニテモ又ハ被告人住所ニテモ呼  
出シテ差支ナレトス

所有ノ権ハ約定書取替ハシノ時甲ヨリ乙ニ移  
ルモノトス故ニ物ヲ受取ラストモ買入レタル  
者其物ノ所有主ナリ然レ其物ノ定マラサル

モノハ約定ノしニテ物ノ所有主ナリト云ヲ得  
サルナリ



牙  
三

訴訟法會議筆記

七年四月十五日



四月十五日會議

×重テ人推物推ノトヲ説ク

人推ト物推トヲ分ツハ裁判上都合ノ為メニ説ケタルモノナリ

總テ義務ニ関スルハ人推ナリ其義務ハ契約ヨリ生スルモ法律上ヨリ生スルモ之レアリ

物推ハ總テ物ニ對シ此物ヲ己レノ物ト爭フ等ヨリ生スルモノナリ其目的物ニ在ルユハ物ノアル所ニ於テ裁判スルナリ

不動産ニ限リ必ス其現在ノ土地ニ於テ裁判ス  
動産ハ身ニ附属スルモノトス故ニ被告人ノ裁判所ニ於テス

人推物推ノ區別ヲ為シ又其一ヶ所ノ裁判所ニ



定ルトニ付テハ緊要ノトアリ尤ノ如シ  
 原告人ノ多人數アル片ハ分派ノ場ニ至リ各其  
 望ヲ充ツルト能ハサルモノナリ譬ハハ三百万  
 兩ヲ借シタルモノアリ百万兩ヲ借シタルモノ  
 アリ然ルニ教ヶ所ニテ之ヲ裁判スル時ハ一人  
 ハ十ノ七八分ヲ取ルトテ得又一人ハ十ノ二三  
 分ヲ得ルト能ハス不公平ヲ生ス故ニ之ヲ一ヶ  
 所ニテ裁判シ各其義務ノ高ニ循ヒ分派ノ公平  
 ヲ得ルヲ要スル所以ナリ  
 物ノ定マリタル約束ノ時譬ハハ何地ノ何番何  
 号ノ家ト確定セシ片ハ則チ物推ニ属ス故ニ其  
 類ハ裁判推ヲ以テ其物ヲ差押ヘ取揚ルヲ得ル  
 物ノ定マテサル約束ノ片ハ物ナキカ如シ故ニ

其違約ニ付損害ヲ生スルトゾアレハ其債ヲ出サ

シム此類ノ如キハ分散ノ片ニ特推ヲ保ツトナ

米ヲ人ニ賣ルニ買入人ニテ其米ニ符号ヲ記シ

タルノミニテ未タ買入人受取ラサル間ニ賣主

分散トナリタル時ハ即チ買入人ニテ之ヲ引取

ルトテ得ル分散人ノ財産中ニハ入ラサルナリ

又既ニ米ヲ買ヒタリト魚ニ其米ニ符号ヲ記セ

サル中賣リ主分散トナリタル片ハ買入人之レ  
 ヲ引取ルトテ得ス分散人ノ財産中ニ入リテ分  
 派トナルナリ  
 人推ニテ訴訟起リ物推ノトニ渉ル共其訴訟ヲ  
 申ノ裁判所ヨリ乙ノ裁判所ニ移ストナシ



タトヘハ此地ニテ空米ヲ賣ルモノアリ此地ノ  
 裁判所ニテ取調ヘタルニ何モアルトナシ却テ  
 彼地ニハ土地モアリ家屋モアリ此時ハ此地ノ  
 裁判所ヨリ言渡シタル書付ヲ原告人彼地ヘ持  
 参シ使吏ノ手ヲ經テ三十日ノ間ニ渡ストテ余  
 ス万一右三十日間ニ渡サ、ル時ハ彼地ノ使吏  
 ノ推ヲ以テ取揚ルヲ得ルナリ同上ノ場合ニテ  
 米ヲ渡サ、ル時家屋地所等ヲ渡ストトナル其  
 時ハ証文ノ書替ニテ則チ之レヲ義務ノ更改ト  
 ス一民法千二百七十  
余以下見合  
 万一人分散ニナラントスルハ証文ヲ書替  
 へ其義務ノ更改ヲ為ストヲ得ス  
 本文其物件ノ上ニ「原告人ハ擧いニ任セト云」

ヲ補フ可シ是レ亦タ律文ノ足ラサル所ト云

又人推物推相混シタル例ヲ左ニ説ク

ホタ下年ニ至ラサルモノハ人ト契約ヲ立ツル  
 ノ推ナシ其契約ハ廢シテ可ナリ然レモ全ク廢

棄ス可カラサルモノアリ其契約ニ有テ訴訟起ル  
 時物主ハ幼年ノ人ナリ買主ハ契約ス可カラサ

ル人ヨリ買タル故不正ノ所為トナル其時ハ幼  
 者ヨリ其物ヲ已レノ所有ナリト云ヒ又賣買ス

ハキノ推ナキ故其物ヲ引渡ス、レト云フ是レ  
 人推物推相混スルモノナリ

治産ノ禁ヲ受ケタル人及ヒ婚スル婦人皆自主  
 自由ノ推ナキト亦ホ下人ニ異ナルナシ

第五十九條第三項マテハ呼出シノ正則ナリ此



第四項ヨリ以下ハ呼出しノ變則ナリ  
會社ノ丁ニ付テハ其ノ會社ハ存続スル時間之ヲ  
設ケタル地ノ裁判所ニ呼出サル可シ

會社ノ事ニ付テハ人推ニカ、ルト魚モ必ス其  
會所ノアル地ニ於テ裁判ス

會社ニ其本社ノ定マラサルモノアリ此時ハ其  
社中ノ任所ニ於テス人推ノ正則ニ循フ

又存続スル云々トアリ既ニ存続セサル日ニ至  
リテハ前条ト同一ナリ

遺物相續ノ丁ニ付其ノ分派ニ至ル迄ノ時間其相  
續人等ノ互ニ為ス訴訟及ヒ分派ノ前死者ノ債主

ヨリ為シタル訴訟並ニ分派ノ裁判言渡ノ確定ニ  
至ル迄ノ時間遺囑ノ贈遺ヲ執行フ丁ノ為メノ訴

訟ニ付テハ其ノ遺物相續ヲ為ス可キ地ノ裁判所  
ニ呼出サル可シ

遺物相續ノ事ニ付テハ未タ分派セサル間ハ死  
者ノ任所ニ於テス此レ人推ノ本則ト異ナリ既

ニ分派スレハ否ラス  
本文ニ分派スル迄ノ時間トアリ相續人幾人モ

アル片ハ此終ニテ可ナリ其一人ノ片ハ差支フ  
ル文ナリ然レ凡相續人一人ナル片ハ右ノ時間

ヲ待ツニ及ハス直ニ其相續人ノ所ニ於テスル  
ナリ

又相續人数人アル片ハ協議セシムル為メ又後  
日混乱ノ起ラヌ為メニ甚分派ニ至ル迄時日ヲ

延ハシ其死者ノ地ニ於テ裁判ス



一人ノ時ハ誤謾ニ及ハス故ニ時間ヲ待タサル  
ナリ

然レモ善ク此一節ヲ解セサル可カラス死者他  
人ヨリ預リ置クモノアル時ハ其預ケ人ヨリ取  
返ス為メノ訴ハ本則ニ循フナリ

此一節三段ナリ第一他人ヨリ相續人ニ對スル  
訴訟第二死者ノ債主ヨリ相續人ニ對スル訴訟  
第三遺囑ノ贈遺ヲ執行フ為メノ訴訟ナリ

家資分散ノトニ付テハ分散人住所ノ裁判所ニ呼  
出サル可レ

家資分散「バイ」トハ商人ノ上ニテ云フ通常  
人ノ身代ヲ仕舞フハ家資分散ト云ハス財産拋  
棄ト云フテコレフチル以下見合ニ百五條商人

家資分散ト決スレハ管財人「サン」チツシラ定メ其  
者ニテ夫々財産ノ處置ヲ為ス故ニ債主ヨリ管  
財人ニ對リ訴訟ス然ルモ凡ハ管財人ノ住所ニ呼  
出ス可キ様ナレモ凡變則ニテ其分散人ノ所ニ呼  
出スナリ

右管財人ハ債主ニテ撰ムナリ  
分散「サ」ナスモ一時ニ債主ノ集マル「ト」ハ出来ヤ  
ルナリ故ニ商法裁判所ニテ假リノ管財人ヲ申  
付ケ置キ債主皆集マリタル上債主誤謾シテ本  
管財人ヲ立ツ

常人財産拋棄ハ管財人ヲ立ル「ト」ナシ  
家資分散ハ人ニ金高ヲ拂フ「ト」止メタル以後  
ヲ云  
商法四百三十七條見合



財産拋棄ハ已レノ所有スル諸般ノ財産ヲ悉ク  
義務ヲ得ヘキ者ニ任カスルコトヲ云民法第542条見

合

家資分散ニ付民事ノ關係シタル訴アルモハ民  
事裁判所ニテ之ヲ裁判ス  
但シ債主ノ特推書入質ヲ云フ



新  
訟  
法  
會  
議  
筆  
記

四  
月  
二  
十  
日



四月二十日會議

第五十九條第八項

保証ノ事ニ付テハ主タル訴訟ヲ為シタル裁判所ニ呼出サル可シ

此條ハ甚メ六ヶ敷キ所ロナリ先ツ保証ノ一柄ヲ説カレ

保証トハ甲ト乙ト訴訟ヲナスニ甲ハ乙ニ勝タントスルニ付キ他ノ一人ヘ對シ防禦ヲナス保

証人ニナルヘキコトヲ依頼スル意ナリトタトヘハ甲ニテ乙ヨリ金ヲ借ルルハ債主負債主アリソ

ノ時ニ當リ別ニ保証人アリ後ニ債主ヨリ負債主ニ金ノ返済ヲ求ムルコトヨリ訴訟トナル如

此片ハ負債主ハ必ス自カラ防クヘシ保証人ヲ



頼ミ防クノ理ナレ然ルニ債主ヨリ保證人ニ對  
シテ債ヲ求ムルキニ至リテハ保證人ヨリ負債  
主ニ對シテ防禦ヲ求ムルノ理アリ  
債主東京ニアリ保證人モ亦東京ニアリ負債主  
ハ西京ニアリフノ時債主ニテ便利ノ為メ保證  
人ヲ相手取リテ訴フルキハ保證人ニテハ負債  
主ヲ呼ハサルヲ得ス是ニ於テ負債主ハ保證ノ  
為メ東京裁判所ニ呼出サル可シ  
本則ナレハ原告人ハ負債主ノ西京ニ住スルヲ  
以テ西京ノ裁判所ニ訴フ可キナレ凡ソノ主  
タル訴訟ハ債主ヨリ保證人ヲ既ニ東京ニ訴ヘ  
タルニ付キ負債主ハ東京ニ呼出サル可シ  
負債主ヲ訴フルハ本則ナレ凡保證人ヲ訴ルモ

負債主ヲ訴フルモ債主ノ便利ニマカス  
此條ハ債主ノ為メニ甚タ便利ナリト雖モ又負  
債主ノ為メニ便利ナル抹身百八十一條ニ補足  
スルモノアリ  
前文ニ云フ如キ訴訟ニ於テ債主ニテ好計ヲ為  
ス為メニ保證人ヲ訴ヘタルキ負債主ニテ右好  
計ヲ覺リ且ソノ證アルキハ負債主ノ住所ノ裁  
判所ハ債主ヲ呼出スルヲ得可シ  
タトハハ西京ノ負債主ハ商人ナリ故ニ保證人  
ヲ訴フルニ及ハス然ルニ東京ノ保證人ヲ訴フル  
ハ何カ好計アリトス此ノ如キ凡ノハ證アルヲ  
以テ負債主ノ住所ハ引キ付ルヲ得ル  
佛國ニ於テハ前ニ此條ヲ置キ後ニ第百八十一



條ヲ置キ補足ス目下日本ノ如キハ必ラス負債主ノ住所ハ訴フルニ於テハ如此心配ナシ  
 二人ニテ同レク借リタルモノアリ債主ニテ甲ノ一人ヲ訴フルキハ乙ノ一人ハソノ債主ノ撰ミテ訴ハタル裁判所ハ出サルヲ得ス  
 又一例ヲ舉ケテ甲ニテ乙ノ家ヲ買フ故ニ其家ノ至ト思フ然ルニ丙ノ一人来リテ我レ主ナリト云フテ其取戻シテ訴フ之レハ物權ニ付其物件所在ノ裁判所ニ訴フナリ其時甲一人ニテ勝タル且レ若レ一人ニテ勝タサルノ見込アルキハ元ノ賣リ主ヲ其裁判所ニ呼寄セ防禦ヲ為サシム之レ保証ナリ其時元賣主買主ニ對シ其訴ヘテ救フテ得サル片ハ裁判所ニテ元價ヲ返

ス可レト言渡スベシ此裁判ニ付テ買人ノ負ケトナリ買ヒタル家ヲ他ノ一人ニ渡ストニナル之レニテ一ト裁判済ムナリ然ル後其家ノ元價ヲ賣主ヨリ取戻ストテ訴フ此時ハ人推ノ本則ニヨリ賣主住所ノ裁判所ニ訴フ  
 前文ノ場合ニ於テ買主ニテ賣主ヲ呼ハスレテ訴ソナス如キハ無用心ノ甚シキナリ万一其訴ニ負ケタル後賣主ニテ何故我ヲ呼ハサルヤ我レニ證書アリ我ヲ呼ル頁ケサルモノヲ今ニ至リテハ我レ関セスト云フ片ハ此訴訟ハソレ坊リニテ済ムナリ此ノ如キ一ハ決シテ實地ニ於テハナキナリ方一之レアレハ此ノ法ニ於テ  
 問 負債主既ニ借入金ヲ返シタル後其受取書ヲ失フタル片債主ニテ未タ之ヲ受取ラサル旨ヲ申



立更ニ貸金取戻シノ許シヲ為スソノ時受取書ナ  
キニヨリ負債主ニテ負ケトナリ一旦裁判済  
メル上後日ニ至リ負債主ツノ受取ヲ見出シタ  
ルキハ二重ニ返シタルクハ取戻レハ出来ルヤ  
答既ニ裁判所ニテ裁判ヲ為シタル上ハ之レヲ取  
上ス一旦裁判知タルモノヲ再ヒ取上ケル時ハ  
裁判輾轉シテ其推ナレトス但一方ノ者其不正  
ナルトヲ知テ之ヲ返ス時ハ格別ナリ之ヲ自然  
ノ義務ト云フ

問日本ニテハ後ニ證シ見出シタル成ハ裁度ニテ

モ裁判ヲ為スナリフノ得失イカハ

答九條ニテハ一時假ノ裁判ト云フモノナリ證ノ

出ル毎ニ取揚ルトニテハ裁判ノ止ム時ナレ故

ニ佛ニテハ取揚ケス

然レル一旦裁判済タル後更ニ證ヲ出し裁判取

消シ願フトシ許スハ凡十ヶ條アリ四百八十一

前文ノ如キハ十ヶ條ノ内ニ入ラス

第九項

證書ノ如ク執行フトニ付キ別段住所ヲ擇ミタル

時ハ民法第百十一條ニ循ヒ別段住所ヲ擇ミタル

裁判所又ハ被告ノ真ノ住所ノ裁判所ニ呼出サ

ル可シ

住所ヲ擇ムトハ双方同意ニヨリテ擇ムトアリ

又原告人ノ為ニ擇ムトアリ被告人ノ為メニ擇

ムトアリ此條ニテハ原告人ノ便利ノ為メニ被

告人ノ住所ヲ擇ムトニ就テ言フ之レ本則ナリ



又變則アリ若レ被告人ノ便利ノ為メニ擇ム  
ハ原告人ニテ他ノ裁判所へ訴出スルコト得ス  
原告人ノ為メニ擇ミタルキハ動カス可カラサ  
ルモノトハ為サス被告人ノ為メニ擇ミタルモ  
ノハ動カス可カラサルモノトス  
又原告被告双方ノ為メ何レノ便利ナルヤ契約  
書ノ文意不分明ナルキハ必ス被告人便利ノ方  
ニ擇フ可シ之レ法律審明ノ本意ナリ  
民法千條

見合



訴訟法會議筆記

七年四月二十五日



四月二十五日會議

第六十條 裁判所ニ管シタル官吏代書師使吏等  
裁判所費用ノ償戻ヲ得ントスル時ハ以前其費用  
ノ生シタル裁判所ニ之レヲ訴出ス可シ

是レ第五十九條ノワ、キニテ本則ニ違ヒタル  
一則ヲ奉クルナリ

裁判所ニ管シタル官吏トハ使吏代書人ソノ外  
書記官モ此中ニアリ但シ代言人ノ關セス  
代書人ハ章ニ原告人トナルソノ譯ハ頼マレタ  
ル節入費ヲ請取置クト魚モ多クハ不足スル  
アル故ナリ故ニ使吏代書師等ノ原告人トナル  
方ヨリ説クナリ

通例ナレハ即チ被告人ヲ其住所ノ裁判所ハ呼



出ス可キナレト之レハソノ費用ノ生シタル裁  
判所ハ呼出ス即チ爰則ナリ

然レト能ク注意スヘシ人推ニ付テノ訴訟ハ必  
ラス被告人ノ裁判所ハ訴フ被告人ノ裁判所ハ

則チ費用ノ生シタル裁判所ナレハ自ツカラ正  
則ニ循フ訳ナリ若シ物推ニ付キタル訴訟ナレ

ハ則チ本條ノ規則ニ循フ即チ爰則ナリ  
又代書師等ノ被告人ニナル時ヲ云ハシ即チ訴

訟入費ヲ取りスキタル時ナリ  
代書師ハ裁判所ノ推限アリテ他ニ行クコト能ハ

ス故ニ代書師被告人ニナル片ハ則チソノ奉仕  
裁判所ニ呼出サルナリ何トナレハ奉仕ノ裁

判所ハ即チ本人ノ住所ニテ費用ノ生シタル裁  
判所ニ訴フルコトナレハ之レ即チ正則ナリ

其裁判所ニ訴ルノ故ハソノ訴訟事件ヲ取扱ヒ  
テ能ク其享柄ノ分明ナレハナリ

若シ代書師免職シテ他ニ住所ヲ占ムル後訴訟  
ノ起ル片ハ即チ以前奉仕ノ裁判所ニ呼出タサ

ルナリ  
若シソノ代書師死去セシ後訴訟起リタル節ソ

ノ子孫遺物相続分派ノ済ミタル片ハ正則ナシ  
ハソノ子孫ノ各所ニ住スル裁判所ニ訴訟ス可

キナレト代書師ニ付キタル訴訟ニハ即チソノ  
父ノ奉仕ノ地即チ裁判費用ノ生シタル裁判所

ニ訴フルナリ  
此ノ如ク爰則多クナレト其爰則中正則ノコトモ亦



多レ

第一 裁判費用ノ生シタル裁判所ニ訴フル所  
以ハ其道理ヲ能ク知了シ居ルユハ其裁判所へ  
訴フルトナリ

代書師謝金目録ノ序制アリト虽モ別段六ヶ敷  
訴訟ナレハ幾分ノ謝金ヲ増シ与ヘルトナリ此  
等モ此裁判所ニテ能ク其事柄ヲ知り居ル故ナ  
リ併シ此ノ理ハ拙劣ト思フナリ何トナレハ以  
前ノ裁判官ニシテ能ク其顛末ヲ知りタルモノ  
調ヘナレハ宜シケレモ必ラス前ノ裁判所ノ裁判  
官トハ定メ難シ殊ニ巴理ノ如キハ別ニ裁判費  
用等ノ事件ノハラ取調フル為メノ裁判官アレハ  
ナリ

一局ニテ成レル所ノ裁判所ナレハ我カ言ノ如  
キノミナラサルモノモアル可シト虽モ裁判官  
ハ昇進シテ各所へ轉シ又退職スルモノアレハ  
ナリ

又年月ヲ過キテ訴フルニ前ノ裁判官ハ在  
職スルヤ否ラスヤ知ルヘカラス

タトヒ此ノ如キヲ訴フルトモ訴人ノ言フトシ  
直ニ聴クトニアラス其一件書類ヲ以テ其費用  
ノ額ヲ定ムルトユヘ何レノ如ク訴出ス出スル  
氏宜シキニアラスヤ

故ニ前ノ裁判所へ訴フルノ説ハ立タサル  
トナリ  
否ラス若シ代書師等不正ノトシテ為ス片ハフノ



裁判官、於テハ督責ノ推アリ又免職ヲモナス  
ノ推アリ故ニソノ裁判所へ訴フル状ナリ  
然リト云ヒソノ代書師等ノ免職又ハ死去スル  
トアレハ罰スルハ出来サルナリ故ニ以上道  
理ト云ヒタルモノ皆不道理ナリ  
因テ考フルコトノ謝金ヲ取過キタル分ハ何シ  
ノ裁判所ニテモ取戻スルハ出来ルナリ故ニ本  
條中償戻ヲ得ント欲スル時ハ下へ其職務ヲ行  
フノ間ノ一語ヲ加ヘサル可カラス  
此條ハ立法官ニテ代書師等ノ弊ヲ矯ムル為メ  
ニ立タルモノナレトモ其免職又ハ死去等ノ節ハ  
為スコカラサルニ至レリ

餘論

此條ハ專ラ代書師等ノ被告人トナル片ノ為メ  
ニ設ケタリ  
元來法律ハ正則ニ依ルヲ主トス凌則ハサナキ  
方宜シ  
代書師ノ原告人トナル片ハ必ラス凌則トナル  
巴里ニテハ此ノ如キ訴訟ノ為メニ別局ヲ立ツ  
ルハ古ハ此類甚タ多シ即今ハ代書師會社アリ  
テ大抵ハ右ノ會社ニテ調ハ由ミトナルユヘニ  
甚タサナシ  
昨年却ラシキ訴訟アリ代書師ニテ八千七百ラシ  
ノ謝金ヲ取ラレトセシトアリ自分等ニモ相談  
アリタリ頼ミタル人ハ四千七百ラシト  
云ヒタリ然ルニ會社ニ裁判官ナトノ見込ニ



テ六千コフラレシ遣ルコトナレシ  
元來謝金目錄定制ノ外ニ別段ノ謝礼金ヲ遣ラ  
サル可カラス若シ常例ノ外ニ遣ラスト云クハ  
裁判官ニテ適宜ニ謝礼ヲ遣ル可シト言渡スナ  
リ右ハ夫々入費又ハ時間ヲモ費ヤス故ナリ然  
レモ弊アリ良法ニアラス  
之レニ及レテ代言人ハ自ラ謝金ヲボムルコトヲ  
得ス頼ミタル人ノ贈与スルヲ以テ足りトスル  
ノ外ナレ故ニ其謝金多クテモ辭セス又贈与セ  
サルトモ訴フルコト得ス  
代言人ハ訴訟ニ及キ頼ムモノ、本心ヨリ賜ル  
モノハ請ルコト得ヘシト魚モ謝金何程出スヘ  
シト預シメ約束スルコトハ禁スルナリ

別段ノ謝礼ハ使吏ニハ贈ルニ及ハス但シ過分  
ニ入費ヲ取り居ルコトアレハ訴訟トナルナリ事  
ニ寄リ別段カヲ尽スコトアリソノ時ハ別段ノ謝  
礼ノアルコトモアリ  
代言人ヲ頼ミタリトテ贈ル可キ金ナキ片何程  
贈ル可シト證書ヲ出スコトアリ後ニ右ノ金ヲ贈  
ラストモ其證書ヲ以テ訴フルコト能ハス  
本條外ニ變則トナルコトヲ更ニ述ヘレトス  
民生證書ニ有心又ハ過誤ニテ誤字書換等アル  
コトアリソノ取調ノコトヲ訴フルニハ變則トナル  
ナリ其訴ハ我子タルヲ認ムルカ又ハ夫婦離縁  
等ノ身分ニ関スルノ訴トハ異ナリ是レ全ク證  
書ノ誤リノミヲ訴フルルカノコトナリ



古ハ人ニ對スル訴ニアラヌ書類ニ對スルノ訴  
ナリ  
民生證各ノ誤リニ付テハ自カラ言ヒ誤マリシ  
モ知ル可カラヌ故ニ此ノ如キ訟ハ被告人アル  
トナレ  
右ノ訴ヘニハ呼出状ナシ使吏ノ取次ニテ裁判  
所ヘ願書ヲ出ス之レヲ檢事ニ廻ハスソノ時始  
メテ檢事ハ被告人トナルナリ  
此ノ訴訟ハ何レノ裁判所ヘ差出ス可キヤノ法  
律ニ記載セスト虽モ最初民生證書ヲ記載セシ  
裁判所ニ差出ストナリ  
通常至急吟味ヲ乞フ片モ願書ヲ出スナリ其時  
ハ裁判所長ヨリ許諾返書ヲ出ス民生證書ノ願

書ニ付テハ返書ヲ出ストナシ何トナレハ其事  
柄ヲ必ス取調サルヲ得サレハナリ  
右ニ付テ道理アリ通常至急吟味ハ許スト許サ  
サルトノ裁判官其緩急ヲ見計フナリ此民生  
證書取調ノ願ニ於テハ即チ裁判ヲ願フナリ之  
レヲ取揚ケサルハ裁判ヲ拒ムニ屬ス  
民法第九十九條ニハ唯其所轄ノ裁判所ト記セ  
リ夫レニテハ分明ナラス必ラスソノ書類ノア  
ル裁判所ヘ訴出ツ可レト改正ス可シ事柄ニヨ  
リ親類等ニ被告人ノアルトモアリ民法第百條  
ヲ見合ス可シ  
ソノ被告人アリト虽凡被告人ノ裁判所ヘハ出  
テス



第六十一條 呼出状ニハ左件ヲ記ス可シ  
 第一年月日原告人ノ姓名職業住所其者ニ代ル可  
 キ代書師ヲ任シタル事及ヒ原告人其代書師ノ家  
 ニ別段住所ヲ擇ミタル事  
 但シ代書師ノ家ニ別段住所ヲ擇ミタル事ナキ時  
 ハ其旨ヲ記ス可シ  
 呼出状ニ年月日ヲ記スト魚モ何曜日トハ記セ  
 ス  
 何ノ為メニ日ヲ記スト言ヘハ日ヲ記セサレハ  
 呼出状ノ日限分明ナラス右ハ幾日ノ時間ニ裁  
 判所ニ出ル云々ノトアルユヘナリ  
 礼式ノ日ハ勿論日曜日ニハ呼出状ヲ出スト  
 得ス但シ至急ノ事ニ付テハ願書ヲ出シ許シ  
 ヲ

受ク可シ第六十一條ニ合

使吏ノ呼出状ヲ書ク時何月何日何某ノ願ニ依  
 テト記ス被告人一見シテ原告人何某ノ呼出  
 テ何日ニ裁判所ニ出ツルトテ告知スルナリ  
 佛ノ法ニテ代書師ナレハ許フルトテ得ス故  
 ニ代書師ハ何某ト記ス  
 此呼出状ヲ遣レハ被告人ヨリ返事ヲ為スニ呼  
 出状ニ別段住所ヲ扱ミタル事ヲ書セサルハ原  
 告人ノ本住所ノ代書師ノ宅ニ送ル  
 本住所ハ往復スル片ハ遠隔ノ地等ハ不便利ナ  
 リ故ニ右等ハ別段住所ノ地ノ代書師ノ家ニ別段  
 住所ヲ撰ムトアリ  
 然レ凡原告人ニテ必ラス其家ニ寓スルニアラ



ス

本文住所ヲ扱ムトハ代書人某ノ家ニ住居シ  
タル旨ヲ記載スルナリ

但書ハ代書人ノ家ノ外ニ住所ヲ扱ヒタル時何  
處何某ノ家ニ住所ヲ定メタル旨ヲ記載スル  
ナリ



訴訟法會議筆記

四月三十日



四月三十日會議

前會第六十一條ノ第一住所ヲ擇フ事トハ代書人某ノ家ニ住居シタル旨ヲ書載スルヲナリ但書ハ代書人ノ家ノ外ニ住所ヲ擇ミタル時何處何某ノ家ニ住所ヲ定メタル旨ヲ記載スル事ナリ

第二 呼出狀ヲ送達スル使吏ノ姓名。住居。授任狀被告ノ姓名。住居。年。呼出狀ノ副本ヲ別ニ受取ル可キ者アル時ハ。其者ノ姓名ヲ記ス可シ。

前項ニ原告人ノトシテ記スノミニテハ呼出ノ効ナシ依テ此項ニ使吏ノトシテ記シ。又被告ノトシテ記シ。又其受取人ノトシテ記シ。又其効ヲ生ズルナリ



被告人ノ姓名云々。右ハ知ルヲ得ヘキニ於テハ  
姓名トモ記載スト云々。姓ノミテモ是レリ  
トス。職業等記スルニ及ハス。

別ニ受取ル可キ云々。呼出状ハナルヘキハ本  
人ニ渡スヘキナレ共。本人ナキ時ハ本文ノ通  
リ。親族後者近隣ノ者ニ渡シ置クヲ得ルナリ。  
其六十八條見合

本人ニ呼出状ヲ渡ストハ。必ス其家ニ於テスル  
ニ及ハス。途中ト云々。渡レテ若シカラス。

然レモ裁判所ニ在ル氏。又ハ議院ニ出席ノ時。又  
ハ寺院ニテ説教中等公礼儀式ノ場ニテハ。右状  
ヲ渡ストナレ。

其公礼儀式中ニ。右状ヲ渡サレハ。二説アリ

一ニハ右ノ状ヲ渡ス為メ。傍人ノ驚駭ヲ醸レ  
満坐ノ妨害ヲ為セハナリ

二ニハ右等ノ節受取ルモノハ讀ムトモ出来  
ス直クニ懐中シテ遂ニ忘却スルニ至ルトアレ  
ハナリ

使吏其家ニ行キテモ本人不在ナル時ハ其親族  
又ハ僕婢ニテモ君合セタル者ニ渡置クヲ得ル

右ノ場合ニ於テ法律上ニテ丁切ヲ論スルトナ  
レト云々。知者ニハ渡置クヲ得ラス。若シ知者  
ニ渡ストアレハ其使吏ニ罰アリ

其事ヲ辨スヘキ程ノモノナレハ婦女子ニテモ  
之ヲ渡シテ差支ナレ

右親族僕婢ニ渡シタル片ハ。使吏ヨリ其受取ヲ



請ハス。又其親族僕婢モ受取ノ印ヲ押スニ及ハ  
ス。又被告人自カラ受取タルモ。受取書ヲ出スニ  
及ハス。但シ親族僕婢ノ受取リタルモ。本文ノ  
通り使吏自ラ其呼出状ノ正副本ニ其者ノ姓名  
ヲ記入スルナリ。

原来使吏ハ。奉職ノ始メ誓ヲ為シタル官吏ニテ。  
右等職務ノ取扱上ニ於テ。詐偽ヲナサハルモノ  
トス。故ニ受取ノ證ヲ他人ニ請ハストモ自身ノ  
記入ニテ十分ノ証アリトス。若シ其書面ニ詐偽  
ヲ為シタル時他人ヨリ訴ヘ出テ其事實詐偽ノ  
證出ル。追ハ真正ノ者トス。其果シテ詐偽ニ極マ  
ルモハ勿論其嚴罰ヲ受クルナリ。  
若シ受取リタル者。親屬婢僕同居ノ者ニテ其状

ヲ紛失セシムルモ。使吏ノ罪ニアラス。被告人  
ノ家事不取締ニ歸スルナリ。

被告人其呼出ヲ知ラスシテ裁判所ニ出席セサ  
ルモハ。欠席裁判トナル。然レモ其裁判ニ不服ナ  
ルモハ。右行違ノ故ニ因リ故障申立ルナリ。得ル  
故ニ補ヒノ出来ヤルモノトセス。

若シ呼出状ヲ渡ス。其者ヨリ受取ヲ請フ。始  
テ之ヲ証トナスモ。必スレモ使吏ノ職掌ヲ待  
タスレテ可ナリ。然レモ其状ヲ持行キタルモ。被  
告人ノ處ニ誰レモ居合ヒサルナリ。或ハ之ヲ  
避ケテ故ラニ不在スルナリ。然ルモ何時マ  
テモ。裁判ヲ得ル能ハス。原告人ニ於テ迷惑サカ  
ラス。



又爰ニ一説アリ。別段賃銭ヲ高クシ郵便ニ托シ  
本人ニ手渡しテ。他人ニ渡サヌ法アリ。此ノ呼出  
状モ此ノ取扱ニナシタラハ然ラレト然凡亦不  
都合アリ。被告人其呼出状ヲ得テ裁判所ニ出サ  
ルモノアリ。裁判所ニラ之ヲ詰問スルニ書状ヲ  
得タルハ呼出状ニテラス。他ヨリ金ヲ送りタル  
ナリ。請待ヲ受ケタルナリト言ヒ紛ラストアリ  
テ誰モ其書ヲ検査シタルモノニアラサレハ。其  
真偽ヲ區別スル能ハス甚タ困難ヲ生ズ。  
故ニ一種ノ推アルモノニテ擔當シ過クアレハ  
必ス罰ヲ受ルモノナカル可カラス。是即テ使吏  
ヲ置ク所以ナリ。  
又此若人及一家不在ノ所ハ。必ス接近ノ隣人ニ

渡し置クコトヲ得ル。其近隣ト云フハ。樓上ヲ始メ  
四隣ヲ近隣ト云フニ階家アル所ハ下タニ住ス  
ルモノヲ呼出スニ樓上ハ尤モ近隣ナリ。  
其近隣ノ人受取りアル所ハ。其使吏其近隣ノ者  
ヘ責ヲ歸スル為メニ其受取ノ證アルコトヲ要ス。  
詳ニ第六十八條ニ見ヘタリ。  
法律ニ於テハ。一軒ヲ隔テタル家ニ渡ス可カラ  
スト云ハサレ共。使吏ニテ甚隔タリタル家ニハ  
之ヲ渡サス。  
又近隣ト云フハ。醉人又ハ平生不行跡ニテ頼ル可  
カラサルモノハ。之ヲ渡スコトナシ。  
頼ルヘキ人ニ之レヲ渡ス所ハ。其者正木ニ其姓  
名ヲ手署スルナリ



若シ之ニ姓名ヲ手署スルコトヲ得ス又之ヲ拒ム  
時ハ使吏邑長副邑長ニ渡シ其檢印ヲ受ルナリ  
身六十八條ニ詳カナリ。

然レ氏第六十九條第八項ノ場合佛蘭西國內ニ  
分明ナル住所アラサル者ヲ呼出ス時ハ此例ヲ  
用フヘカラス

其時ハ同項ニ記載シタル通り其訴ヲナシタル  
裁判所ノ門扉ニ貼付スルナリ

第三 訴訟ノ目的及ヒ訴訟ヲ為ス憑據ノ簡略ナ  
ル辨明

訴訟トナル可キ目的何等ノ事ト云フヲ記ス不  
動産取戻シノ訴ナラハ取戻ス所ノ目的又所有  
ノ權ノ訴ナラハ所有ノ權ナル目的ヲ巨細ニ記ス可シ

右訴訟ニ付此ノ一、如何ト問ノニアラス此ノ  
ヲ如何處分スヘシハ申遣スナリ

又唯金ヲ貸シタルトハカリニテハ其事分明ナ  
ラス何ヲ賣リタル金トカ又ハ家賃ノ滞リトカ  
去フ其緣由ヲ記ス

又其私ノ証書アル片ハ其証書ヲ以テ証拠トナ  
ス可キ旨ヲ記ス可シ万一証拠トナル可キ私ノ  
文書ナキ片ハ人ヲ以テ証トナスコトヲ記スヘシ  
公正ノ証書ハ此等ノ弁解ヲ用ヒストモ十分ナ  
リ

右等ノ一ヲ記載スル所以ハ被告人ニテ之ヲ一見  
シテソノ訴訟ノ相當ト不相當トヲ認メテ其覺  
悟ヲナフ為メナリ



不動産ナレハ物件所在ノ地名ヲ記シ小名アレ  
ハ其小名ヲモ記ス可シ

右ニテモ不足ナリ其隣地ヲモ記ス

町名番号アレハ亦之ヲ記ス時トシテハ此ノ如  
ク詳細ナルニ及ハス其一團ヲナシタル不動産

ラ字アルノ類ナリ譬へハ上野淺草ト云フカ如

シ第一見<sup>六十四</sup>合<sup>四</sup>条右ノ通り記シ置クハ被告人ニ疑

ヲ生セサウシムル為ナリ此項三段ト區分シ

ハ其事物ノ目的ニハ其緣由次為三ニハ其

確實ナル証據ナリ

第四 訴訟ヲ審判ス可キ裁判所及ヒ其裁判所

ニ出席ス可キ猶預ノ期限<sup>物</sup>推ナレハ其物件所

在ノ地ノ裁判所ヲ記シ又被告人数人アレハ

又會所アルノ場所定マラサルハ其會社中

一人ノ住所裁判所ニ出席ス可キヲ定メ記ス

ナリ

其裁判所所在ノ地名ヲ記入スルナリ

右ハ訴訟ニ慣レサルモノモアルユヘニ念ヲ入ルナ

リ猶預ノ期限トハ夕トヘハ裁判所近傍ニ住スル

ノ人呼出スニモ四月三十日ニ呼出状ヲ出スナラハ

中間八日ノ猶預ヲナシ来ル五月九日出席スヘ

キ旨ヲ記ス

法律ニ定メタルナト、書ク可カラス法律ハ人

民一般ニ知レト看做シアレ民中々全國人民皆

能ク知ルモノニアラス

右ノ数ヶ条ハ原告人ニテ取調ヘ申述タル上使吏



不動産ナレハ物件所在ノ地名ヲ記シ小名アレ  
ハ其小名ヲモ記ス可シ

右ニテモ不足ナリ其隣地ヲモ記ス

町名番号アレハ亦之ヲ記ス時トシテハ此ノ如  
ク詳細ナルニ及ハス其一團ヲナシタル不動産

ラ字アルノ類ナリ譬へハ上野淺草ト云フカ如

シ第<sup>六十四</sup>条<sub>合</sub>右ノ通り記シ置クハ被告人ニ疑

ヲ生セサラシムル為ナリ此項三段ト區分シ

ハ其事物ノ目的ニハ其緣由次第三ニハ其

確實ナル証拠ナリ

第四 訴訟ヲ審判ス可キ裁判所及ヒ其裁判所

ニ出席ス可キ猶預ノ期限高産

但シ此諸件ヲ記セサル時ハ其呼出状ノ効ナカ

ル可シ

又會所アルノ場可定コラサル片等ハ其會社中

一人ノ住所裁判所ニ出席ス可キヲ定メ記ス

ナリ

其裁判所所在ノ地名ヲ記入スルナリ

右ハ訴訟ニ慣レサルモノモアルユヘニ念ヲ入ルナ

リ猶預ノ期限トハ夕トヘハ裁判所近傍ニ住スル

ノ人呼出スニモ四月三十日ニ呼出状ヲ出スナラハ

中間八日ノ猶預ヲナシ来ル五月九日出席スヘ

キ旨ヲ記ス

法律ニ定メタルナト、書ク可カラス法律ハ人

民一般ニ知レト看做シアレ民中々全國人民皆

能ク知ルモノニアラス

右ノ数ヶ条ハ原告人ニテ取調ヘ申述タル上使吏



ニテ呼出状ニ記入スルナリ同区内ト雖モ距離遠近ノ違ヒニテ日限ノ違ヒアリ  
十ノリヤノト毎ニ二日ノ猶豫ヲ與フ物  
權ノ時ハ猶大切ナリ各地ノ距離ヲ知ラサル  
モノ多シ  
又被告人多キ時ハ日數ヲ費スナリ其猶豫ノ  
原則ハ第七十二条ニアリ佛蘭西國內ニ住居ス  
ル者ニ付テハ総テ八日ノ猶豫アリ里程遠  
キ時ハ五<sup>ノ</sup>リヤノト毎ニ別ニ一日ヲ増  
加ス  
八日トハ中間八日ニテ呼出状到着ノ日ト裁  
判所へ出ル日トハ除イテ八日ノ内ニ算入セ  
サルナリ

祭日ニ當ル日ハ呼出状ヲ出サス又裁判所へ  
モ出テス

又石ノ八日目休日ニ當ル日ハ其翌日ニ呼出  
ス<sup>ノ</sup>ナリ若其祭日八日中ニアルモノハ期限  
中ニ算入スルナリ

石ノ八日ハ通常ノ本則ナリ至急ノ節ハ原告  
人其期限ヲ縮メテ呼出ス<sup>ノ</sup>ヲ願フ<sup>ノ</sup>得ル原  
告人ハ何レノ時モ至急ナル<sup>ノ</sup>ヲ欲セルナシ  
然レモ裁判官ニ於テ其事柄ノ急ニスヘキト  
否スト<sup>ノ</sup>ヲ見計ラヒ其願ヲ許ス<sup>ノ</sup>アリ許サ  
ル<sup>ノ</sup>アリ

此願書ヲ差出ス<sup>ノ</sup>ハ裁判所ニ限ル<sup>ノ</sup>ニ非ラ  
ス裁判官ノ宥所へ至リ願フ<sup>ノ</sup>モ可ナリ其時ハソ



ノ宥所ニテ之ヲ許スナリ第百四十條ヲ見合ス可シ

右諸件ヲ記セサル時ハ其呼出状ノ効ナカルヘシ

第百六十一條ノ内一ヶ條ニテモ欠ケタルナレハ呼出ノ効ナシ

若シ使吏ノ誤ツテ記シタル片ハ書直ス計リニテ被告人ノ損トナルナキナリ

其誤書シタル時ノ入費ハ使吏已レニ擔當ス可シ第百三十一條見合

裁判ニ取掛ル片ハ必ス裁判官ニテ其呼出状ヲ検査スルナリ

右ノ効ナキ呼出状ニ付被告人ノ出席セサル

時裁判官ニテ其本書ヲ檢シテ其誤アルヲ知レハ裁判ヲ為サ、ルナリ

若シ裁判官ニテ心付カス欠席裁判ヲ為スナリテ後ニ被告人ヨリ故障ヲ申立ル片ハ其

裁判入費ハ一切使吏ヨリ出スナリ

再度ノ裁判ニ被告人ノ負ケトナリタルトモ初メノ欠席裁判ノ入費ハ使吏ヨリ出スナリ

右誤書等ノ場合ニ付大加ナル二件アリ

裁判官呼出状ヲ檢シ欠誤アル時裁判ヲ為ササルハ其裁判ヲ拒ムニ非ラス其欠誤アルヲ以テ其事件ヲ了解スルナレ能ハサル故裁判ニ

取掛ルナレ能ハスト云フ意ナリ是其一ナリ



又呼出状ノ不都合ハ大抵使吏ノ過チニア  
リ其罰ハハ<sup>一</sup>ラシク位ノ罰金ニテ濟ム<sup>一</sup>ア  
レ其事柄ニヨリテハ其償ヲ為ス為<sup>レ</sup>ニ百万  
ヲラ<sup>レ</sup>ク<sup>レ</sup>ノ出ニ及<sup>フ</sup>ア<sup>リ</sup>之<sup>レ</sup>カ<sup>レ</sup>為<sup>レ</sup>ニ其株式  
ヲ失<sup>ヒ</sup>其身代ヲ抛棄シテモ足<sup>ラ</sup>サ<sup>レ</sup>ニ至<sup>ル</sup>ト  
アリ是其ニナリ

譬<sup>ヘ</sup>ハ<sup>一</sup>フ<sup>レ</sup>スクリプシヨ<sup>シ</sup>ノ期將ニ盡シト  
ス<sup>ル</sup>頃原告人ヨリ訴ヘタルモノヲ使吏ニ  
テ其期限ヲ怠リテ呼出状ヲ出<sup>サ</sup>ル<sup>ル</sup>如キ  
ノ類原告人ノ損失莫大ナルヨリ其責使吏  
ニ歸<sup>シ</sup>テ<sup>ハ</sup>及<sup>フ</sup>ナリ

公礼儀式等ノ節ニ呼出状ヲ送達ス<sup>ル</sup>ハ全ク  
効ナキニハ<sup>ア</sup>ラ<sup>ス</sup>使吏ニテ<sup>ハ</sup>五<sup>フ</sup>ラ<sup>シ</sup>クヨリ

百<sup>フ</sup>ラ<sup>シ</sup>クマ<sup>テ</sup>ノ罰金ヲ言度サ<sup>ル</sup>ナリ

使吏ハ巴里ノ下等裁判所中ニアルモノヲ合  
セテ六十人トス當時ハ其負ヲ増スモ計リ難

シ但シ區裁判所ノ使吏ハ<sup>ハ</sup>中ニ算入セス  
法律ニ効ナシト記セサ<sup>レ</sup>ル<sup>ル</sup>分ハ其呼出状ニ於

テ効ナシトセス其過チハ使吏其責ニ任シ罰  
ヲ受クルナリ使吏ソレ慎マサ<sup>ル</sup>可<sup>ケ</sup>ンヤ故

ニ日本ニ於テ<sup>ハ</sup>使吏ヲ置<sup>ク</sup>ル<sup>ル</sup>ハ温厚篤実且  
大アリテ家資富有ノモノヲ擇ム可<sup>シ</sup>

佛ニテ使吏ハ身元金ヲ大藏省ニ預ケ<sup>シ</sup>上免  
許状ヲ得<sup>然</sup>ル<sup>後</sup>ニ非<sup>ラ</sup>サ<sup>レ</sup>ハ務ヲ為ス<sup>ト</sup>ヲ

得<sup>ス</sup>之<sup>レ</sup>定<sup>則</sup>ナリ







訴訟法會議筆記  
七年五月五日

司法省

司法省



五月五日會議

第六十二條 使吏ヲシテ呼出狀ヲ送達セシム  
ル謝金ハ一日分餘額ヲ拂フ可カラス

使吏呼出狀ヲ送達スルニ其裁判所所在ノハ  
ルロシダスマシ」中ノ遠キ所マラ行クテアリ其時  
ニテモソノ送達ノ旅費ハ一日分ノ外之ヲ拂  
フナシ

佛ニテ以前ハ二日モカ、ルテアレ共迄時ハ  
往來ノ使大ニ完ケタルニヨリ二日モカ、ル  
ナシ假令二日カ、ルテナルトモ一日分ヨ  
リ外其旅費ヲ拂フナシ

裁判所ヨリ被告人ノ住所マテ五キロメートル  
迄ハ一錢モ其旅費ヲ拂フナシ



五キロメートルヨリ十キロメートル迄ハ四  
フランクヲ拂フ

十キロメートル以上ハ五キロメートル毎ニ  
ニフランクヲ増ス

増シテ二十フランク迄ニ止マル是即チ一日  
分ナリ 二十フランクハ五十  
キロメートルニ當ル

若シ二日モカ、ル時ハ使吏自費ニテ之ヲ辨ス  
佛ニテハ往来ノ使アルユヘ其旅費二十フラン

クニ止マルトモ使吏ノ損トナルヲナシ其近  
キ処ニテハ随分羨餘モ之レアルユヘ自ラ衆

除スルナリ  
右ハ裁判入費目錄中ニ詳カナリ

第六十三條 裁判所ノ上席人ヨリ允許ヲ得ル

レハ祭日ニ呼出状ヲ送達ス可カラス

祭日ニ呼出状ヲ出スニ効ナキニアラス使吏  
ニ過子アレハ其責トナルヲ前ニ説キタリ

第六十四條 物權ノミニ管シタル訴訟又ハ人  
權ト物權ト相混シタル事ニ付テノ訴訟ノ時ハ

呼出状ニ不動産ノ種類其所在ノ邑ノ名及ヒ知  
ルヲ得ヘキニ於テハ其邑中不動産所在ノ部分

並ニ其不動産ニ隣レル地ノ中少ナクトモニ箇所  
ヲ記ス可シ但シ一團ヲ為シタル不動産ニ管シ

タル時ハ其名ト其所在ノ地ヲ記スルヲノミシ以  
テ足レリトス若シ此等ノ事ヲ記セサル時ハ其呼

出状ヲ取消ス可シ

此條土地ヲ記スルヲハ第六十一條ノ第三ノ



下ニ説キタリ故ニ以ニ贅セス

第六十條勸解ノ一アルニ付先ツ勸解

ノ概白概畧ヲ説ク

千七百九十年代佛蘭西ノ大憲章ヨリ蘭英ニ効

ヒ此勸解ノ法ヲ用ヒタリ

此時ヨリ英ニ行ハル、陪審ヲ用フ

佛ニテハ何レノ国ヲ論セス美法アレハ取テ用

フルノ説アリ

治安裁判官ニテ必ス相争フ双方ヲ呼寄セ裁

判所ノ中ニアル自分ノ室又ハ自分ノ宿所ニ

テ通常ノ衣服ニテ又ノ子ニ教フル如ク勸解

ス此時ハ裁判官ト云ハス勸解人ト云フ又其

場所ハ裁判所ト云ハス勸解所ト云フ

勸解ハ人権物権トモ必ス被告人住所ノ治安

裁判官少ヲ為ス動産不動産等ノ別ヲ立ツル

ナシ

其住所ニテ勸解スルハ平生其原告被告ノ一方

者ヲ能ク知ル故ニ勸解為シ易キヲ以テナリ

其事柄ニ付勸解ヲ受クルニ及ハサルモノア

レトモ大抵心ス勸解ヲ受ルナリ

タトハ甲ト乙ト訴ヲナスニ丙ヨリ故障ヲナス

ソノ丙ハ新タナル人ナレ氏之レカ為勸解ヲ

ナスナレ何トナレハ甲乙ハ既ニ勸解出来

スレテ訴訟ニナリタルニ今又丙ニ勸解ヲナス共

益ナシ徒ラニ時間ヲ費ヤスノミナリ

又訴訟中新ニ償ヲ申立タルトモ主タル訴訟



勸解ス可カラサレハ其償ニ付勸解スルナ  
キナリ

右訴訟ニ付保証人其訴へニ関スルナアル共  
此亦勸解ヲ為サ、ルナリ

故ニ一旦主タル訴訟ヲ始メタル上ハ勸解セ  
サルナリ第四十八條見合主タル訴訟ヲ為

サ、ル前ハ必ス勸解スルナリ  
勸解ハ各自己ノ權利ヲ以テ其事物ヲ自由ニ

取扱フヲ得ヘキ権アル人ニアラサレハ之ヲ為  
サ、ルナリ

幼年又ハ人ノ妻治産ノ禁ヲ受ケタルモノ等  
其ノ事物ヲ自由ニ取扱フヲ得サル人

ハ其ノ後見人管財人支配人等一々相談シテ  
允許ヲ受ケサレハ能ハサル故ナリ

若シ勸解ヲ為サントセハ右数人ヲ呼寄セサ  
ルヲ得ス然ル時ハ其手数モ多クシテ容易ナラス

理ニ於テ當然ノナラサレハ能ハサルナリ  
第四十九條ノ目ニアルモノハ總テ勸解ニ及ハスト

ス何トナレハ政府縣邑等ノ事件ニ付テハ其會  
議員ヲ尽ク呼ハサレハ能ハス是又理ニ當

ラサルナリ  
自主ノ權ナキ者勸解ニ及ハサルハ勿論又其人ハ勸

解スヘキ人トモ其争フ所ノ事和解ヲ為スヲ  
得ヘキ事ニアラサレハ勸解セス

タトヘハ子ヨリ人ヲ指シテ我父ナリト訴フル如  
キ是ナリ



又夫婦別居ノ一夫婦財産ヲ分ツ一婚姻取消  
ノ一等モ亦同シ

尤モ夫婦争ヒテ勸解スル一アレ共其時ハ縣裁  
判所ノ裁判官之ヲ為スナリ治安裁判官ニテハ之ヲ  
為サハルナリ

右ノ道理ハ治安裁判官ヨリハ縣裁判官ハ威  
権モアリテ勸解モ能ク行届ケハナリ且治安裁判  
官ハ夫ノ明友ナトニテ多ク相押ルノ嫌アリ其  
事柄佛ニテハ鄭重ニナスユヘナリ

ヲ訴フル等  
条ニ詳カナリ

右ハ訴ヘタリトモ必ス其ノ訴ノ通りニスル  
モノテアララス其條理ヲ篤ト裁判官ニテ兼知セ  
サレハ之ヲナサハルナリ

民法離婚  
夫婦別居

離婚ハ重キ一ユヘ離婚ニナラサル様却テ治  
安裁判官ニテ勸解シテ可然トノ説アレ共治安  
裁判官ハ平日相逢フユヘニ輕ニシテ夫婦互ニ  
感セサルノ意味アリ

若シ勸解シテ不承知ナレハ必ス別居セシメ  
テ夫々其家屋ヲ扱ヒ及ヒ其給料ヲ与フル一  
子アレハ其子ノ引受等マテノ手ヲ付ケサル  
ヲ得ス此等ノ一ハ治安裁判官ニテ之ヲ處置  
スルノ権ナシ是亦縣裁判所ニテ勸解スル所  
以ナリ

勸解スヘキ一〇勸解スヘキ人物〇主タル訴訟  
此三件ニ限リ勸解スルナリ  
然レ氏至急ノ場合又事情ニヨリ勸解ニ及ハ



ナルモノアリ

○商業ノ事 ○家賃ノ事 ○土地借債ノ事

○利息ノ事」ホナリ

又被告三人以上ノ時ハ勸解セス然レ氏之レニ及シ原告人多クシテ被告一人ナレハ勸解ス

右ノ理ハ人情大抵拒ムコトアル故ニ被告人多  
数ナル時ハ必ス之ヲ拒ミ勸解ト、カサルモ  
ノナリ

原告人ヨリ勸解ヲ願出ル時ハ既ニ一步自ラ退  
キ相談スルノ情アル故被告人ハ必ラス之ニ乘シ  
多人同腹ニテ申張ル故勸解セサルモノトス  
タトヘハ外国人ヨリ我政府ニ雇ハレ度コトヲ

願フ時ハ政府ニテハ成ル丈ケ給金ヲ賤シク  
シテ使ハント云ヒ外國人モ終ニ賤給ニ從フ  
カ如シ四海兄弟ト云ト虽モ此ニ至テハ虧ル  
所アリ

總テ願ヒ出ルモノハ損ナリ  
此四十九條ノ目ニ於テハ大ニ議論アリ今ハ  
七項ノ内ニ項ヲ取レリ

第一項 官府及ヒ云々ハ無論勸解ニ及ハサ  
ルモノニテ此處ニ掲クルニ及ハス

第三項 主タル訴訟云々モ原ヨリ勸解ス可  
カラサルモノユヘ亦タ掲クルニ及ハス

第四項 商業ハ急ナルモノニテ之レモ掲  
ルニ及ハス是レハ第二項ノ迅速ナル中ニ含



有スルナリ

第一項ハ行政上ニ関スルコトニアラス民事ニ  
関スルコトナリ

第五第六項モ記スルニ及ハス年金養料ノ拂  
方等原ヨリ勸解ノ出来サルモノナリ

第五項中負債ヲ償ハサルニ付キテノ禁錮ハ已  
ニ免シタリ

但シ刑事ノ裁判ノ費用ト罰金ヲ拂ハサル  
コトニ付テハ尚ホ禁錮アリ

右等ノ如ク佛國ノ法律ニ於テモ不備ノ所アリ  
故ニ之ヲ其終日本ニ行フコトアル可カラス我

國ノ害ヲ他國ニ及ホスナリ  
併シ此法ヲ立テタルノ宜シカラスト云ニ非ス

法律編輯ノ宜シキヲ得サルヲ云ナリ

勸解ハ現地多分行ハルコトナリ左スレハ此  
事ヲ如此云コト治安裁判官ニテ証書ニ

認メ約定ヲ立サスルコトナリ  
其約定ハ更改ス可カラサルモノナリ

又其勸解調ハサル時ハ其調書ノ寫ヲ受取り  
後訴訟ニ呼出ス時使吏ニ渡スナリ

治安裁判官ハ公正ノ官吏ナリ然ルニ第五十四條  
ニ私ノ契約書ノカアリト書キタルハ甚宜シカラ

ス治安裁判官ノ書キタルモ公正ナル故ニ万一詐偽アリ  
テ他人ヨリ偽リナリト訴フルマテハ正シキ證トスルモノナリ

公証人ノ証書ハ何方へ持出ストモ公正ノ証  
書ニテ通ルモノナリ治安裁判官ノ書キタル



モノハ裁判所ニ持出サレハ其効ナシ  
何故ニ公証人ノ証書ト治安裁判官ノ証書ト右  
ノ如ク違ヒアリヤト云ハ此法律書ヲ作ル時ハ国  
議院ニテ草案ヲ拵ヘタルモノナリ其節ノ考  
ニ治安裁判官ノ書タルモノ一般公正ノモノ  
トスル時ハ勸解々々ト云ツテ皆ナ治安裁判  
官ノ書付フニ至リ公証人ハ其職ヲ曠フ  
スルニ至ル故ニ治安裁判官ニ権ヲ付ケサル為  
メニ如此ナシタリ  
右ノ訳ハタトヘハ一万フランニシテ契約書ヲ  
公証人ニ頼ム時ハ三百フランノ書賃アリ  
之ヲ治安裁判官ニ頼ム時ハ一錢ノ費ナシ是  
其公証人ニ頼ムモノナキニ至ル原因ナリ因

テ此ノ私ノ字ヲ下シテ暗ニ公証人ヲ助ケタ  
ルモノナリ

故ニ公証人ノ書キタルモノハ其終公正ノ書  
トナリテ何地ニテモ行ハルレトモ治安裁判  
官ノ書キタルハ同シク公正ノ証書ニシテ一  
應裁判所ニ出サレハ其用ヲナサス  
公証人ノ証書ノ末文ニハ「オーノレデ。ビユフロブランセ」  
ノ文アリ

佛蘭西人民ノ名ヲ以テノ義ナリ之ヲ日本ニテ云ハ  
天皇陛下ノ御名ヲ書クカ如シ此公正証書ノ重キ  
所以ナリ

此以下再ヒ勸解ノ一ヲ説ク  
若シ兩人ノモノ勸解届カサル時ハ其届カサ



ル旨ヲ呼出状ニ記載ス

勸解呼出ノ即欠席スルトモ治安裁判官ニテ  
欠席裁判ヲ為ス一能ハス唯欠席シタル旨ヲ  
其治安裁判所ノ呼出状ニ記入ス

然レ氏其欠席ノモノハ治安裁判官ニテコナフランク  
ノ罰金ヲ申渡スノ権アリ

其罰金ヲ納ムルニハ八日ノ期限アリ

双方ノ中一方ノ者勸解ニ欠席シテ罰金ヲ拂  
ハサル迄ハ縣裁判所ニ訴訟ヲ為ス一ヲ許サス

第五十六條見合

原告人ニテ欠席スレハ十フランクヲ出シタル上ニ非ラ  
サレハ訴訟ヲナスヲ得ス又被告人ニテ欠席シテ  
罰金ヲ拂ハサレハ欠席裁判トナルト

右拂フタル証ハ代書人ヲ雇ヒ得ルナリ

其他勸解ニ付テノ書付ノ寫ヲ送ルユヘ拂フ  
タル一モ分カルナリ



訴訟法會議筆記

七年九月十日

司法省

司法省



五月十日會議

第六十五條 其呼出狀ト共ニ勸解ヲ為シ得サ  
ル事ノ調書ノ寫又ハ勸解ニ出席セサル事ヲ記  
シタル書ノ寫ヲ送達ス可シ若シ之ヲ送達セサ  
ル時ハ其呼出狀ノ効ナカル可シ○又呼出狀ト  
共ニ訴訟ヲ為スノ憑拠タル證書ノ全部又ハ一  
部ノ寫ヲ送ル可シ但シ此等ノ寫ヲ呼出狀ト共  
ニ送達セサル時ハ後ニ吟味ノ時原告人其寫ヲ  
送ルコトアリト虽凡其寫ノ費用ヲ裁判費用中  
ニ加フ可カラス

訴訟セントスルニハ先ツ必ラス勸解スヘキ  
コトナリ勸解調フ所ハ訴訟トナラスシテ済ム  
ナリ元來勸解スヘキコト勸解ス可カラサル



トト、ノ別アリ勸解ノ調ハサルト又ハ欠席  
シタルトアレハ其旨ヲ証書ニ認メ原告人  
ニ渡ス訴訟ノ片ハ使吏其証書ヲ呼出状  
ニ添ヘテ被告人ヲ呼出ス

其呼出状ニハ勸解ヲ許シアルトノ書クニ及  
ハス又勸解ノ出来サルトヲ記スルニ及ハス  
勸解ニ及ハサルモノハ記シ置ストモ其事柄  
ニテ分明ナレハナリ

勸解スヘキモノトモ急ナル片ハ勸解ヲ受  
ケス其終訴へ出ルナリ其時ハ勸解ヲ受ケサ  
ル旨ヲ記ス但シ此時ニ限り其旨ヲ記入スル  
ナリ

幼年ノト身分ノトハ過日説キタルカ如シ

至急ノトハ勸解ヲ為サス然レモ裁判官ニ於  
テ至急ナラスト見込ム時ハ其呼出状ヲ効ナ  
シトス其時ハ被告人出ルトモ之ヲ帰ヘシテ  
更ニ勸解セシムルナリ

此時ニ當ツテハ其呼出ニ被告人出席セストモ  
元ト勸解ノ順席ヲ經サルニヨリ原告人ノ過  
チナルユヘ其呼出状ノ費用ハ原告人之ヲ擔  
當スルナリ

其時迄ハ代書人未タ手ヲ付クルトナキニ付其  
費用ナキナリ

使吏呼出ニ行ク旅費ハ前ニ説ク如ク一日  
二十フランクノ費用ヲ拂フナリ  
原告人ハ被告人三人以上アリトシテ呼出タ



ル片其中ノ一人ハ訴訟ニ関セサルコトアラシ  
ニハ被告人二人トナルコトハ勸解セシムルナ  
リソノ時ハ前ニ同シク費用ハ原告人ニテ辨ス  
ルナリ

右ハ実地ニハ少キコトナレトモ決シテナシト  
セス

此一説ハ教師今考へ出ス所ト云フ  
三人以上以下ト區別ヲ立テタルハ原告人我  
カ志願ヲ急クユヘワサト被告人ヲ増シ三人  
以上トシテ勸解ヲササハル等ノ弊アルニハ  
之ヲ防ク為メニ此等ノ知ハ嚴ニ其區別ヲ立テ  
タルナリ若シ右ノ場合ニテ呼出状ヲ出シタリトモ  
其呼出状効ナキモノトス

第六十一條ニ載スル証拠モノハ寫ヲ送ルヘシ  
此書付ヲ添へ呼出スル原則ナレバ若シ其寫  
ヲ添へストモ其呼出状ハ廢物トナルニアラス其書  
類ノ寫ハ後ヨリ裁判所出ス氏妨ケナケレ共費用ハ  
原告人ニテ之ヲ拂フナリ

前條呼出状ニハ証拠ヲ節略シテ書載スルコ  
ト云ヒ此條ニハ其寫ヲ添フルコト云フナリ

第六十六條 使吏ハ總テ自己ノ宗系ノ血屬又  
ハ姻屬ノ親及ヒ其婦ノ宗系ノ血屬及ヒ姻屬ノ  
親ノ為メニ呼出状ヲ送達ス可カラス又其再從  
兄弟以上ナル自己ノ傍系ノ血屬及ヒ姻屬ノ親  
ノ為メ呼出状ヲ送達ス可カラス若シ此規則ニ  
背ク時ハ其呼出状ノ効ナカル可シ



使吏ハ誓ヲ立テタル官吏ナレ共親族等ノ嫌疑ヲ避サル可カラス故ニ親族ノ為ニ呼出状ヲ取扱フヘカラスタトヘハ親原告人ニテ被告人ヘ呼出状ヲ送達セシムルニ使吏故ラニ之ヲ被告人ニ送達セス因テ欠席裁判トナリ遂ニ故障申立又ハ控訴ノ期限ヲ過キタル迄被告人ニテ知ラサル等ニテ大ニ其迷惑トナルコトアルユヘ之ヲ禁ジタルナリ

此條中血屬姻屬ノコトハ別ニ系図アリ此儀ハ別ニ説ク可シ

此條ニ利トナル方ヲ禁シテ害トナル方ヲ禁セス先ツ其區別ヲ説カニニ其害ニナルコトハタトヘハ使吏ニテ物件ヲ取上ル裁判ニ付其

書付モ其規則ニ合ハセス又取上ケモセス然ル時ハ親族ノ為メヲ量リテ却テ害トナル何トナレハ終ニソノ為メニ親族ノ罪ヲ釀スノミナラス自ステ罪ヲ得ルナリ故ニ之ヲ禁セサルナリ又害トナルコトヲ云ハ、使吏ノ父ヘ他人ヨリカ、ル訴訟アル時其呼出状ヲ父ヘハ必ラス送達スヘシ

若シ之ヲ送達セサレハ欠席裁判トナリニ父ノ負トナル故ニ必ラス送達スルナリ

故ニ親族ノ被告人ナルキハ禁セサルナリ畢竟利ニナル方ハ之ヲ禁シ害ニナル方ハ差支ナキユヘ之ヲ禁セス

自己ノ宗系血屬トアリテ其分界ヲ立テス上



ハ祖々宗々ニ至リ下ハ子々孫々マテヲ含ニテ  
云フナリ

姻属ノ宗系ト云フモ即チ前條ノ如ク上下ニ  
通シテ云フ

上ノ自己ノ宗系ノ血属又ハ姻属ノ親中ニハ  
婦ノ宗系ノ血属ヲ含ム下ノ姻属ノ親トハ夫  
ノ親属ニアラス婦ノミノ姻属ナリタトヘハ  
一度嫁シタル婦ハ舅姑アルヘシ右ヲ引取リ  
タラハ自己ニハ関係ナシト虽モ婦ニハ関係  
アリ

婦ノ離縁スレハ其姻属ニ関係ナシト虽モ其  
子ノ跡ニ残リタルキハ関係アリ

一旦離縁スレハ其縁断ユレ氏子アルトキハ

其縁断セス是其関係アル所以ナリ

其子ノ祖父アリソノ祖父ニテ自己ヘ呼出状

ノ一ヲ頼ミタル時ハ直ニ拒ク一能ハス愛情ノ

起ルハ必ラス私アル可シ故ニ之ヲ禁スルナリ

若シ其子ナキハ姻属ナシ使吏ニ於テ嫌ヒナシ

本文ヲ自己ノ宗系血属又ハ姻属宗系ノ親及

ヒ其婦姻属宗系ノ親親婦ノ前管ト書ケハ分明ナリ

再從兄弟以上ハ夫婦双方ヲ兼子テ云フ

傍系ノ血属トハ伯叔父母以上ナリ姻属ノ親

トハ傍系ニ就テ云フ

前文ニハ婦ノ姻属トアリ自己ノ傍系ノ血属

云々ノ所ニハ婦ノ姻属ヲ説カス婦ニ姻属ノ

親アリト虽モソレ等ハ法律ニ載セス妻ノ前



婚ノ傍系ニハ嫌ナケレハナリ

子アルトモ子ノ伯叔ノ事ハ差支ナシ

再從兄弟ヲ六級ノ親屬ト云此再從兄弟ノ中

ニ異父母兄弟ヲ算入セス全ク同父母兄弟ヨリ

成リタル者ノミヲ云フ然ラハ異父母兄弟ニ

ハ送達スルモ可ナリト云フカ如シ法律ノ欽

ナリ既ニ法律ニ禁セサルニ於テハ異父母兄

弟ノ為ノニ送達スルトモ其効アルモノトス

然レ氏異父母兄弟ハ婦ノ血屬即チ自己ノ姻屬ノ

親ヨリモ其情ニ於テ甚タ密ナリ嫌ナキ能ハス

此ニ之ヲ禁スルヲ補フヘシ

然レ氏佛ニテハ右ノ嫌ヲ避ケスレテ送達スルコト

ナキ為メ裁判所ニテ別ニ其取締法ヲ設ケタリ

此等ノ片ハ裁判所ニテ其罰ヲ加ヘ甚シキ

ニ至リテハ二ヶ月ノ停職アリ又自分

ノ為ニスルヲト其妻ノ為ニスルヲト

ハ又此條ニナキナリ元ヨリ自己ノ訴訟ヲ

自カラ書クヲハナキ筈ナレトモ法律ニ禁

セサルニ於テハ差支ナキカ如シト虽氏既ニ親族

姻屬ノ為ニサヘ禁アルヲナレハ自己ハ勿

論ナリ

若シ右等ノノヲ為シタル片ハ譴責ハ申スニ及ハス

餘程重キヲニナルユヘ此條ニハ輕キヲ奉テ

重ヲ云ハスト見做シテ可ナリ

日本ニテ法律ヲ立ツルニハ自分ノ為ニスル

ヲ妻ノ為ニスルヲ異父母兄弟ノ為ニスルヲ



ヲ分明記入スヘシ  
此等ノ法律ノ所欽ハ佛國ニテ改草スヘ  
キニ屢々國乱アルヲ以テ其改草ニ違ナ  
ク其終ニテアルナリ  
國議院ニテ旧來コヲト改正ノ議論アリ然ル  
ニ千八百七十年ノ乱ニテ其事終ニ廢シ  
タリ其後已里ノ變ニ國議院ノ草案等悉ク  
兵火ニ罹リタリ實ニ惜ムヘシ

第六十七條 使吏ハ呼出狀ノ正本及ヒ副本ノ末ニ  
其謝金ノ高ヲ記入ス可シ若シ之ヲ記セサル時ハ後ニ  
其呼出狀ヲ官署ノ簿冊ニ登記スル時ハ五フラン  
クノ罰金ヲ出ス可シ

呼出狀ノ價ヲ書クヘシ書カストモ其價ヲ取ラサル  
ニモアラス効ナキニモアラス唯五フランクノ罰金ヲ  
出スノミ此條ハ餘リ大切ナル條ニアラス其謝金  
ヲ貪ホルト宿弊ナルニ因テ之ヲ拒ク為シ置キタルレ  
氏別ニ謝金目錄表アリテ其價ヲ増減スル  
規則アレハ此條終ニ無用ニ帰ス

第六十八條 呼出狀ハ被告人ニシテ渡シ又ハ其住  
所ニシテ渡ス可シ然レ氏被告人ノ住所ニ其被告人  
及ヒ其親族從者ノ共ニアラサル時ハ使吏其呼出狀



ノ副本ヲ近隣ノ者ニ渡シ近隣ノ者其正本ニ其姓名ヲ手署ス可シ若シ其近隣ノ者姓名ヲ手署スルコトヲ得ス又ハ手署スルコトヲ欲セサル時ハ使吏其副本ヲ其邑長又ハ其輔佐役ニ渡シ此等ノ者謝金ヲ得スシテ正本ニ捺印ヲ為ス可シ使吏ハ其正本及ヒ副本ニ此等ノ諸事ヲ附記ス可シ

此條已ニ前ニ説ケリ故ニ此ニ贅セス

第六十九條

此前數條ニハ各人民ヲ呼出スルコト解ク此條以下ハ全ク別ナリ第一項ヨリ第六項マテハ無形ノ人ト見做スナリ

第一 官府ヲ其土地ノ事ニ管シタル訴訟ニ付キ

呼出ス時ハ其訴訟ヲ審判ス可キ裁判所々在ノ地ノ州長又ハ其住所ニ呼出状ヲ送達ス可シ

官ハ無形ノ人ニテ其所有物アリテ被告人ニナルコトヲ説キタリ行政ノ事件ニ関シタルコトニアラズ即チ官ヲ一人ト見做シ民事ノ裁判トナル

官ノ所有ニカクルモノハ民事裁判  
若シ官ニテ人民ノ私地ヲ取込ム時ハ其害ヲ受タルモノヨリ訴出テ民事裁判トナル

又官ノ山林等ヲ買ヒタルニ間違アリ又ハ其土地家屋貸借ノコトニ付テノ訴ハ民事裁判

又一ツノ大切ノ例アリ日本ニテモ國債アリ佛ニテモ又大國債アリ此等ハ人民一般ノ金ヲ借ルト同チ此等ハ政府ト阜モ別ヲ立テス一般人民ト者



做シ其訴ハ民事裁判トナル

以上皆民事裁判ニナルモノヲ云フ

以下行政ニ出ル分ヲ云ハシ

政府ト人民ト関係ノ時政府ノ權ヲ以裁判セサル

可カラサルトハ行政裁判ニ帰ス

タトヘハ租税ノトニ付其出スヘキ高ハ行政官ニテ

法律ヲ以テ定ムレ氏其各人民ニ取立ルルハ各地

方ノ行政ニテ定ムルトナリ

毎年翌年ノ不動産税ハ何程ト定ムタトヘハ其

高百万トスレハ之ヲ八十六縣ニ科シ一縣ニテ何

程ト定ム

尤州ニ貧富大小アレハ其相當ヲ以テ割合ヲ定ム

州又之ヲ郡アルシナラシニ割付又之ヲ邑コニシニ割付一邑ノ高

ヲ定ム

ソレヨリ邑會議院之ヲ一人ニ割付ルナリ其

人々割付ニ付テハ其者所持ノ土地廣狹產物

宅地空地等ヲ表ニヨリ検査シ其税ヲ科スル

ナリ

右表ハ行政官ニテ製ス其表ニハ不適當ノト

アリテ餘分ニ税ヲ拂フコトアル時之ヲ訴フル如キハ

即チ行政裁判ニ帰スルナリ

日本ニテ云ハ、

天皇陛下其高ヲ定ムルヨリ其各人ニ割付ルニ至

ルマテ行政上ニテ取極ムルコトナレハナリ

此等ノコトヲ若シ民事裁判ニテ取揚クルハ

コシテ「權限ノ争ヒトナル」



三世ナホレホニ千八百五十二年ニ大統領トナル  
氏ハ前主オーリアン家ノ財産ヲ取揚ケント布告  
シタリ此オーリアン家財産ハ佛國ノ物ナリ然ル  
ニ其オーリアン家ノ子孫ヨリ右ノコトヲ布告直シ  
ニ為シテモライ度旨民事裁判ニ訴ヘタリ之  
ヲ民事裁判ニ取揚ケタルヲ以テ巴里ノ縣令  
ヨリ故障申立タル故民事裁判ニテ之ヲ拒ム  
氏ハ権限ノ争トナルニ付之ヲ行政裁判ニ歸シ  
タリ然ルニ右ノ訴訟ハ布告ノ通リト裁判ニ  
ナリタリオーリアン家ノ訴ハ効ナシトナレリ  
昨年「ナホレヨシ」三世ノ甥ナル者佛ニ歸ラントスル  
ヲ警視廳ノ手ニテ留メタルニ付人民ノ權利ヲ妨  
ケタリトテ警視廳ニ對シ民事裁判所へ訴

ヘタリ

此時ニハ民事裁判ニテ取揚レハ権限ノ争ア  
ルトト見タル故此訴ヲ断ハリタリ其時ノ言ニ一  
政府斃レテ一政府立ツ時ハ新政府ノ為メ人  
民ヲ保護セサル可カラスト云テ其訴ヲ取上サル  
ナリ

タトヘハ教育ノ官アリ不抜ノ官ナラサレハ場合ニ  
ヨリ免職セラル、コトアリソノ場合ニヨラスシテ免職  
セラル、時ハ何故ニ免職セラル、ヤト訴フルコトアリ  
此訴訟ハ行政裁判ニ訴フ

タトヘハ文部卿ハ自<sup>職</sup>分<sup>職</sup>ヲ免職スルノ権アリ然レ  
共自<sup>分</sup>ニハ故障ヲ訴フルノ権アリ  
自<sup>分</sup>奉職中休暇ヲ得ラ日本ニ来リ居ルニ



佛ノ文部省ニテ免職スル片ハ自分ニテ必  
ス之ヲ行政裁判ニ訴ルナリ

右権限ノ大主意大段ニツニ分カル官ノ公  
権上ニ就テノ訴訟ハ行政裁判ナリ

官ノ私権上ニ就テノ訴訟ハ民事裁判ナ  
リ



訴訟法會議筆記

五月十五日



五月十五日會議

第六十九條 官ニ必ラス所有物アリソノ事ニ付テ  
ノ訴訟ハ一般ノ法ニ循ヒ民事裁判ニ歸ス

官ノ所有物ニ於テ不動産ナレハ物件所在ノ  
地ノ裁判官ノ權ニテ處分ス

右ノ場合ニ於テ官府原告ニテ人權ナル片ハ  
被告人所在ノ裁判所へ訴フルナリ

若シ官府人權ノ一ニ付被告人トナル片ハ何  
レノ裁判所へ訴フヘキ一ハ法律上ニ云ハスト  
虽氏呼出状ヲ何レノ所へ送達スルト云フ一  
ハ法律ニユレアリ

第一項ニ云フ如ク官ノ所有物ニ付テノ訴  
訟ハ州長又ハ州長ノ住所へ送達スルトアリ



一俤官府ノ所有スル山林田地等ニ必ス管理  
人アリ故ニ此管理人ニテ此訟ヲ引請ク可キ  
カ如シト雖氏州長ハ一州ノ惣代ニシテ聰明  
ナリ且其管轄地ノ支配權アルヲ以テ訴  
訟ヲ防クニハ管理人ヨリ州長ハ委シキユヘ  
州長ヲ呼出スナリ

タトヘハ神奈川縣中ニ製鐵場アリ鑛山アリ  
工部省ニ屬スルモノト雖氏工部省ハ惣テ  
製鐵ニテモ鑛山ニテモ其業ヲ盛大ニスル責  
アルモノニシテ其土地ハ即チ政府ノモノナ  
レハ大藏省ノ管轄ナリ因テ工部省ヲ呼ヒ  
出タサスニシテ縣令ヲ呼ヒ出スナリソノ時  
ハ縣令ハ政府ノ名代人トナルナリ

何故ニ縣令ヲ政府ノ名代ト為スヤト云ハ、  
大藏卿ハ全國ノ地ヲ管スル一ナレモ一人ニテ  
自身一之之レニ應接スル一能ハサルユヘソノ  
地ノ情態ヲ熟知スル縣令ヲ以テ名代人ト  
ナスナリ

タトヘハ神奈川ニアル鑛山ニテ人民ノ所有  
地ヘ侵入シタルハ鑛山寮出張ノ官吏ヲ呼  
ヒ出スヘキカ知シ然ルニ縣令ヲ呼ヒ出スハ不  
相當ニ見ユレ氏否ラス尤モ事ニヨリ鑛山寮  
ノ官吏自ラソノ規則ヲ侵シタル時ハ直チニ  
寮ノ官吏ヲ呼ヒ出ス一アレ氏鑛業ニテ人  
民ノ所有物ニ侵入セシ時ハ必ラス縣令ヲ呼  
出スナリ元ヨリ寮ノ官吏ハ土地ノ一ニ付テハ



ソノ訴ヲ防クノ權ナクシテ縣令ハ土地所有ノ名代人ナレハナリ

縣令ハ政府ノ代人トハ云ヘ氏分別スレハ即チ大藏卿ノ代人トナル譯ナリ

第二 官府會計局ヲ訴訟ノ事ニ付キ呼出時ハ其官吏又ハ其官署ニ呼出状ヲ送達ス可シ

右ハ人權ニ関スルコトニテタトヘハ會計官吏ニテ人民ヨリ金ヲ借ルコトアリ右ニ付訴訟

起ル時ハ人民相互ノ訴訟ト同ニ歸スル故ソノ會計局ニ呼出状ヲ送達スルナリ其借金

ハ官ノ借用ニ相違ナケレ氏官ノ公權ヲ以テ借リタルニアラス畢竟會計局ノ私借ナリ

故ニ民事裁判トナルソノ時ハ大藏卿ヲ呼出スコトナレ氏ソノ名代ニ會計局ヲ呼ヒ出スナ

リ又タトヘハ金ヲバンクヘ預ル如ク人民ヨリ官署ヘ預ケルコトアリ尤モ利金モアルナリ此

等ノコトニ付訴訟トナルキハ人民ヨリ官署ヲ相手取ルコトアリ

又政府ニ關スル新聞紙又ハ公證人等ハ保證金ヲ出シ置クニソノ業ヲ罷メルキハソノ

金ヲ政府ヨリ返ス可キニ猶之ヲ返サハル氏ハ訴トナルナリ

ソノ時ニハ政府ハ政府ナレトモ金ノ預リ人ト云フモノナリ故ニ一般人民ノ訴訟ト同シ

ク民事裁判所ニ



凡政府ニテ公ケノ権ヲ以テ取扱フタル金ニ  
於テハ民事裁判ノ権外タリ

タトヘハ官吏ノ私ノ疎忽ニテ出任セサル  
等ノ一ニテ月給ヲ引クトキソノ官吏ヨリ若  
憤ヲ訴フルモノハ民事裁判ノ権ニアラス  
即チ行政裁判ノ権ニアリ

又タトヘハ官府ニテ人民ヨリ金ヲ借ルトキ  
ハ官府ノ権ニテ借ルニアラス官府ニテ人  
民トナリテ人民ヨリ借ル理ナリ即チ國債等  
之レナリ

又タトヘハ陸軍ニテ軍器ヲ注文スルニソノ  
軍器ニ付テノ訴訟ハ行政裁判ノ権ナリ  
ソノ節ハ注文シタル省ノ御自カラ其器械

師ヲ呼ビ出タシ且ツ自カラ裁判スルナリ  
國債ニ付キ争ノ起リタルトキハ即チ此本條  
ニ入ルナリ

尤モ右ノ場合ニ於テ争ノ起ル一ハ絶テナシ  
近年ノ戦ニ國債證書ヲ失ヒタルモノ澤山ア  
リソノ時ニ更ニ證書ヲ請取ル一ヲ會計官ヘ  
乞フモノアリソノ節右ヲ取調ヘテ渡ス可キ  
ニ之レヲ拒ムキ之ヲ訴フ如キハ即チ民事  
裁判ニ入ル

タトヘハ陸軍卿ヨリ軍器ヲ注文シタルニ其  
器械遅延シテ未タ出来サル内ニ最早軍  
モ果タリ因ラ其事ニ後レタルヲ以テ軍  
器ノ價ヲ引ケト云フ片ニ争ノ起ルモノハ



私事ニアラス公権ナリ故ニ行政裁判トナル

右ノ如ク軍器ノ粗悪又ハ出軍ノ跡等ニテソノ價ヲ渡サレ時訴ノ起リタルトキハ民事裁判官ニテソノ争ヲ審理スルノ理ナシ即チ陸軍卿ニテ裁判ス

右人民ノ為メニ軍ヲ起スハ政府職務上ノ公權ナルニ其用ヲ勤ムルモノソノ事ニ急リ或ハ其物ヲ粗悪ニスルハ之レカ為メ不都合ヲ生スルニ至リ政府人民ニ對シ其義務ヲ欠ク所以ノ理ヨリ起ルナリ

國債ヲナスニ於テソノ人民ヲシテ損害ヲ受ケサラシメント欲スルカ為メニ政府ノ權ヲ

以テセス一般人民トナリテ借ルナリ

佛ニテモ行政ノ一ニ付テハ自カラ注文シテソノ争ヲ起シ自カラ之レヲ裁判スルハ不都合トノ論アリ故ニ政府外ニ別ニ行政裁判所ヲ置キ通常裁判官ノ如ク不救ノ權ヲ与ヘタル裁判官ヲ設ケント云フ説アレ氏未タ行ハレス

本文ニカヘリテ云フ

官吏ニテ金ヲ借ルニ人民一般ノ如クスルハ少シク不相當ナルカ如キモノナレモ尤ニアラスコトニ陸軍省ノ注文ヲ受ケタル軍器ヲ同省ヘ納メ陸軍卿ノ檢印アル證書ヲ以テ金ヲ請取ラントスルニ會計官吏ニテ金ナシト



云テ渡サ、ル片ハ如何ス可キヤ即チ  
右ノ注文品ハ既ニ検査済ニテ納マリタル  
モノナレハ即チ民事裁判トナルナリ  
器械ノ美惡ト出来ノ遅速トハ行政裁判ナリ  
既ニソノ品ヲ受取りテ金ヲ渡サ、ル時ニ至  
テハ民事裁判ナリ  
此條ニ於テ法律上ニ付キ議論スヘキコトアレ  
氏佛ニテ此條ヲ存スル間ハソノ立テ置ク処  
ノ理ヲ辨明セサル可カラズ  
第三 官署又ハ公舎ヲ訴訟ニ付キ呼出ス時ハ  
其本局ニ呼出狀ヲ送達シ其他ニ於テハ其委員  
又ハ其官署ニ送達ス可シ  
公ケノ建造物ヲ云フ病院狂院又ハ養育院

質屋等ノ如キ官ヨリ監察ヲナスモノアリ  
官署ト云フモ公舎ト云フモ同シク公ケノ建  
造物ヲ云フ諸省等ノ如キハ此中ニハ入ラ  
ス

右ハ全ク人民ヨリ 釀金ニテ出タルモノナ  
レ氏政府ヨリ監察ヲナスコトハ公ケノ建造物  
ト云フ 寺ハ邑ノ持チユヘ其内ニハラス

其建物ハ私有物ナレ氏ソノ支配ヲナスモノ  
ハ官ヨリ命スルナリ此公ノ字妥ナラス  
ソノ附属ノ官員ノ月給ハ此建物ノ揚り高ヨ  
リ出ス

此建物ヲ建ルニモ閉ルニモ政府ノ允許ナカ  
ルヘカラス尤モ地方官ニテ允許ス此會計モ



官ニテ検査スルナリ

此本局ハ首府ニアリ支局ハ縣ニアリソノ時  
ハ本局ハ本局ノ地支局ハ支局ノ地ニ呼ヒ出  
スナリ

第四 皇帝ヲ其私領ノ事ニ付キ呼出ス時ハ裁  
判所管轄地内ニ在ル検査ニ其呼出状ヲ送達  
ス可シ

佛ニテハ長ク王ニテ後皇帝トナリ今ハ大統  
領トナリタリ大統領ニ對シテハ此條ハ用ヒ  
ス

古ヨリ言傳ヘニモ王ニ對シ訴ヲナスコトヲ得  
スト故ニ検査ヲ呼出スナリ此訴訟法ヲ作リタ  
ルトキハ検査ヲ王ノ名代ト立テタリ故ニ此

ノ如シソノ後千八百三十二年ニ至リ全ク王  
ノ所有物ヲ管轄スル官吏出未タリ民事目録  
官吏ハ譯ス

其後ハ此官吏ヲ呼出スコトナリタリ  
一体検査ヲ王ノ名代ト云フハ間違ヒナリ一  
般人民ノ名代ナリ

故ニ千八百三十二年ノ時ニ至リ民事目録官  
吏ヲト書付ヲ以テ其所有物ヲ支配スル官吏ノ義  
ヲ呼出シソノ後千八百五十二年ニ至  
テモ同  
シ決シテ王ヲ呼ヒ出スコトナシ

千八百四十八年千八百七十二年トモ大統領  
ニ對シテノ法律ハ別ニ設ケサリシ

第五 邑ヲ呼出ス時ハ邑長又ハ其住所ニ呼  
出状ヲ送達シ巴勒ニ於テハ州長又ハ其住所



ニ之ヲ送建可シ

邑ノ一ヲ説ノ前ニ先ツ説ク一アリ千八百六  
年訴訟法ヲ編成スルマテハ縣ハ只土地ノ分  
界マテニテ縣ヲ無形ノ人ト見做ス一ハ之レ  
ナレ故ニ縣ノ一ハ此ノ法律ニ載セサリシ今  
日ニ至リテハ縣ヲ無形ノ人ト見做ス一ニナ  
リタリ故ニ縣令ヲ呼出ス一ニナリタリ  
縣令ハ縣ノ名代人ナリ又政府ノ名代人ナリ  
故ニ人民ヨリ政府ヲ相手取ル片ハ縣令ハ政  
府ノ名代人トナル又縣ヨリ政府ヲ相手取ル  
時ハ縣令一人ニテ縣ト政府トノ名代人トナ  
ル一能ハス故ニ縣令ハ政府ノ名代トナリ縣ノ  
名代人ハ縣會議院中ヨリ撰ミ出ス

右ノ名代人ヲ撰マサル間ハ縣會議院ノ長之  
レヲ為ス

邑ニ所有物アリ右ニ付キ訴アル片ハ邑長ニ  
テ邑ノ名代人トナル

邑ヨリ縣ヲ相手取ル片ハ縣令ハ縣ノ名代人  
トナリ邑長ハ邑ノ名代人トナル縣ヨリ邑ヲ  
相手取ル片亦同シ尤モ此例ニアラサルモノ  
アリ「巴里」リヨシ之レナリ

巴里ハニナアルロシギスマンマリ一アルロシギスマン  
毎ニ長アリ右ノ如ク数人アルユヘニ縣令ヲ  
相手取ルナリリヨシモ「巴里」ト同シキユヘ縣令  
ヲ相手取ルナリ

右ニ付テ少シク面倒ナル一アリ若シ縣ヨリ



巴里府ヲ相手取ルトキ縣令一人ニテ縣ト巴里府トノ名代人トナルト出未サルナリ  
巴里ノ規則ハ人民ヨリ巴里ヲ相手取ルトキハ縣令之レニ代ルソノ時ハ邑長ノ仕事モ一人ニテ兼スルヲ能ハス  
ソノ時ハ権カアル方ニ依テ縣ノ名代人トナリ邑ノ方ハ邑會議院ヨリ名代人ヲ撰ムナリ  
千八百四十八年マテハ巴里ノ縣令ヲ稱シテ中心邑マールサンダラール長ノ義ト云フ今ハ否ラ  
ス  
ソノ所以ハ縣令ハ巴里ノ邑會議院ニ上席セス別ニソノ上席人ヲ撰ムトニナリタリ故ニ  
其名ナシ

巴里ヲ以テクノ如ク區分スルハ一人ノマメニテ廣キ首府ヲ惣轄スレハ人民ノ不便利ヲスレハナリタトハ婚姻死去ノ届等ヲナスニモ遠隔ノ地マテ往來セサルヘカラス故ニ便利ノ為ニ數區ニ分チタルナリ



訴訟法會議筆記

七年五月廿日



五月廿日會議

第六十九條 第五ノ第二項

此五箇ノ場合ニ於テハ呼出狀ノ副本ヲ受取リ  
タル者其正本ニ換印ス可シ若シ之ヲ受取ル可  
キ者其所ニ在ラス又ハ其所ニ在リト魚モ換印  
ヲ為ス<sub>一</sub>ヲ肯セサル時ハ治安裁判所ノ裁判役又  
ハ初告裁判所換事其換印ヲ為シテ其呼出狀ノ  
副本ヲ受取ル可シ

本條以上ノ五項ハ總テ無形人ニ對スルモノヲ云フ  
右ハ人ニ對スル呼出狀ト違ヒ政府ヲ呼出ス  
トキニ於テハ官吏ノ身ニ切實ナラサルユハ  
怠リ勝チナリ故ニ官吏ノ身ニ深ニ志レサル  
為ノニ換印セシムルナリ前ニ説キタル本人



並一家不在ノ時近隣ニ送達シ檢印セシムルハ  
使吏ヲ疑フニハアラヌ請取リタルモノ、等閑  
ニセサ為メナリ  
民法ノ講議ニ於テ義務ノ生スル五根元ヲ説  
キタリ此條ハ五根元中契約ノ部ニ屬ス即チ  
代理ヲナスノ契約ナレハナリ  
第一ハ 縣令  
第二ハ 官吏  
第三ハ 公舎等ノ支配人  
第四ハ 皇帝ノ私有物支配  
第五ハ 邑長等  
右等ハ惣テソノ職ニ任シタル節既ニ代理ヲ  
為スノ契約ヲ生シタルモノトス

若シ右等ノ官吏ニテ請取ルヲ欲セス又ハ  
不在ノ時ハ治安裁判所ノ裁判官又ハ被告裁  
判所ノ檢事ニテ請取リ檢印ヲナスナリ  
其官吏等ニテ拒ムハ甚々稀レナリ然レモ  
時ニヨリソノ呼出状ヲ見テ州邑等ノ官吏ニ  
テ此レハ他ニカ、ルニ付キ請取ラスト故  
障ヲ述ル時ハ使吏ニテハソノ当否ヲ弁別ス  
ルヲ能ハサルユヘ裁判官又ハ檢事へ渡スナ  
リ  
官ノ公権ヲ以テ長官ヨリ品物ノ注文等ヲ申  
付ルヲアリソノ事件ニ付呼出状ヲ會計局ノ  
官吏へ送達スルニ右官吏ニ於テ我レハ此度  
ヲ知ラスソ省ノ長官ヲ呼出スヘシト云フト



キハ使吏ニテ呼出状ヲ送達スルノ前ニ同シ  
呼出状ヲ檢査又ハ治安裁判官ニテ夫レ夫レ  
ヘ送達シタル上ハ拒ムコト能ハス故障アレハ  
裁判所ヘ出テ述ヘサルヘカラス万一ツ時ニ  
モ日限中ニ裁判所ヘ出サレハ欠席裁判トナ  
リテ邑長ナレハ一邑ノ責メヲ一身ニ受クル  
ナリ  
檢査又ハ治安裁判官ヘ渡ストト定メタルハ  
使吏ノ便利ノ為メナリソノ送達ス可キ距離  
ニ於テウカントシムナレハ治安裁判官ノ方  
近シ巴里等ニテハ檢査ノ方近シ何レニテ  
モ其便利ノ方ニ渡シテ然ルナリ  
治安裁判官ニテハ必ラス請取ルナリ何トナ

レハ官祿アリ不抜ノ権ナシ故ニ拒ムコトヲ得  
サルノ情態アルナリ邑長ハ官祿ナシ故ニ自  
由ニ議論スルコトヲ得ル

第六 商社ヲ結セタル時間呼出ス時ハ其商社  
ノ家ニ呼出状ヲ送達ス可シ又既ニ商社ヲ解キ  
タル後ハ其社中ノ者ハ其住所ニ之ヲ送達ス可  
シ

商社モ亦無形人ナリ

商社ヲ結セリノ社ノ存在スル間ハ其商社ノ  
會所ニ送達ス可シ若シ定マリタル商社ノ會  
所ナキ時ハ其社中ノ人又ハ其人ノ住所ニ送  
達ス可シト云フコトナリ  
商社ヲ解キタルトキノコトハ昏テ無之併シ惣



會計ノ仕揚ケノ濟迄ハ即チ此條ニ循フナリ

商社ノ會所ナキト云フトヲ説カン

タトヘハ肥前ノ陶器ヲ東京ニ出シ賣ラント

數人約束シテ運輸スルモノアリ肥前ニモソ

ノ會所ナク東京ニモソノ會所ナシ併シ數人

約束シテ商ヲナストキハ即チ其社ハ有ルナ

リ

商社ノ存続スル間ト云フトヲ説カン

商社ヲ立ツルトハ社ノ為ニスルニアラス

一般ノ人ノ為ニスルナリ然ルニソノ社ヲ

解キタルトキ一人々々ヨリ勘定ヲ取ルニテ

ハ甚タ債主ノ迷惑ナリ故ニ惣勘定ノ濟ムマ

テハ法律上ニ於テ其社ヲ解カサルモノト

見做シテソノ社ヨリ勘定ヲ取ル様ニ定メタ

ルナリ

右ノ訳ニ於テハ裁判ノ都合ノ為メヨリハ人

民ノ都合ノ為メ重ニスルナリ民法五百二十

ハシ

既ニ會社ヲ結ビ銘々動産不動産ヲ差入レタ

ルトキハ即チ會社ノ動産不動産ニテ一已ノ

モノニアラス故ニ其不動産ハ各入シテ一

己ニ金ヲ借ル莫ク得ス

會社ニ於テ民莫商莫ノ別アリ

商社ヲ結フニ既ニ其社ニ持込ニタレ動産不

動産ハ會社ノモノナレトモ民莫ハ否ラス其

所有物ヲ持込ニタリトモ矢張り各自ノモノ



ナリ  
 民更商更金ク別ナリ商業會社ハ無形ノ人ト  
 看做セトモ民更會社ハ無形ノ人トセス商社  
 ニテハ持込ミタル財産ハ商社ノモノナリ唯  
 ソノ分前金而已各自ノ利トナル  
 タトハハ幼年ノモノノ商社ニ入ルニ元來相当  
 ノ裁判所ノ允許ナクシテハ幼年ノモノニテ  
 不動産ヲ賣ルコトヲ得スト虽モ商社ニ入りタ  
 ル上ハソノ手数ヲ経スシテ賣ルナリ之レハ  
 商社ノモノニシテ且動産ト見做セハナリ  
 民事ノ社ニ於テハ前文ノモノヲ賣ルコト能ハ  
 ス有形ノ人ナレハナリ  
 會社ヘ入レサル財産ハタトセ其社分散スル

コアリトモ其分散中ニハ入ラス既ニ社ニ入  
 レタル式ケノモノハ其分散中ニ入ルナリ  
 社ニ入レタル金式ケニテ済ム  
 有名會社ニ於テハ銘々ノ身代ノ有ル式分散  
 中ニ入ル  
 幼年ノモノハ商社入ル權ナシト虽モ其父ニ  
 於テ既ニ社ニ入りテ後死去シタル時ハ其子  
 ソノ相筈人トナルニ付テ社中ニ入り居ルナ  
 リ元ヨリ幼年ニテ入社スルコトハ出来サルナ  
 リ  
 商社ニ入ルニ銘々差入レタル動産不動産又  
 ハ其社ノ金ニテ買得ルモノハ皆其商社ノ所  
 有ナリ



ソノ義務ハ如何ナルモノト云フハ動ク者ナリ故ニ自己ノ物トナスハソノ分前金丈ヶナリ  
法律上ニ於テ何故ニ民更ノ會社ト商業ノ會社ト如此區別ヲ立テタルヤトイハ、ソノ商社ト取引スルモノニ於テ十分慥ナルモノトシテ信用セシムル為メニ立テタルモノ故社外銘々ノ貸シ金アル者ヨリ其社へ掛リ取ルハ出来サル為メニ為シタルナリ  
然レモ民法五百二十九條ニ云フ如クソノ社ヲ解クトキハ其所有ノ權ハ全ク消滅スルナリ  
本條ニ基ツキ説ク

會社ノ存続スル迄トナスルハ銘々ソノ金ヲ持テ去ルナリソレカ為メ社金ト私金ト混淆シテ社ト引合タルモノ、迷惑トナル故ニ法律上ニ於テ惣勤定ノ濟ム迄ハ會社ノ存続スルモノト見做シテ其社ニ呼出状ヲ送達スルナリ

此更ニ付テ議論アリ前文ノ通り會社ニ商更ト民更トノ別アルレハ今是レヲ行フニ商更ノ方ニ從ハン歎民更ノ方ニ從ハン歎民更ノ會社ニ於テソノ家ヲ立ツルニソノ家ハ誰ニ屬スルヤト云ヘハ其社中ノ各人ニ屬ス尤モ出金高丈ケツ、屬スルナリ  
故ニ右會社ノ一人ニ於テ分散トナルトキハ



ソノ高丈ケ即チ分散中ニ入ル

仙國ニ於テ民更ノ會社モ全ク商社ノ如クス

可シトノ論ヲレモ立法官ニテ未タ其論ニ從

ハス

民更會社ノ不都合ナルコトハ社中ノ一人分散

シタルトキハソノ社中ノ關係トナリ迷惑ヲ

蒙ムルナリ

委シキハ會社規則ヲ見可シ

右ヘハ社ヲ無形人ト看ナスコトヲ知ラス其民

事ノ商事ノ社ハアリタレモ惣テ有形人ヲ以

テ取扱ヒタリ然ルニ革命後稍ヤク商社ノミ

無形人トナスコトヲ論シ出シタリ

農業會社ニ於テ無形人トナサハソノ中ノ一人

借金スルニ土地ハ其社ノモノニテ動カスコトヲ

得ス不都合ナルヘシトノ説アレ共無形人ノ

方都合ヨロシソノ人ノ為メニハ分前金丈ケ

ヲ自由ニシテ土地ハ動カスコトヲ得サラシム

レハナリ



訴訟法會議筆記

明治廿五年  
五月廿五日



丑月二十丑日

第六十九條 第六ノ餘論

此第六項設立旨シカラズ第六一句誰レカ防ク  
ト云フヲナシ第六二句ハ場所モ人モ分明ナレ  
トモ第六一句ハ場所ノ志ヲ有ラソノ人ヲ言  
ハス

凡ソ會所ノ有ル高社ニハ必ラス支配人ハ有  
ルモノナリ故ニソノ支配人ニ渡ス可レト記  
セサルヲ得スソノ會所ノナキ氏ハ銘々支配  
人ナリ誰ニ渡レタリトモ苦レカラス前文ニ  
誰レト人ヲ指テ書サルハ書キ落レナリ故ニ  
又ハ支配人ニト書入ヘレ  
前ニ説キタル如ク使吏途中ニテ被告人ヘ達



タルトキハ途中ニテ渡シテモヨロシト故ニ  
支配人ニ途中ニテ渡シテモヨロシトス會所  
ナレハ誰レニテモ渡シテ若シカラス但シ支  
配人ノ宅ヘハ送達スルコトヲ得ス

第七 家資分散人ノ連結セシ債主ヲ呼出ス時  
キハ其管理者又ハ其住所ニ呼出状ヲ送達ス可  
シ

此第六第七ハ取分ケ高又ニ係ルナリ右ニ付  
キ少シク其分散ノ仕方ヲ決セシ  
分散トハ拵ヒノ止マリト云フ迄ニテ到底行  
キ盡キタリト云フニハアラスソノ誤ハ人ニ  
拵フコト能ハサルトモ亦人ヨリ取ルモノナキ  
トハ云フ可カラス

高人ニテハ高事ニカハル義務モアレハ民事  
ニカハル義務モアリ故ニ其拵ノ差支タル旨  
ヲ裁判所ヘ自カラ届出ルニ出入帳ノ如キ差  
引ニ属スル書類ヲ一加添テ出ス

萬一右高人ニテ右仕分ノ書類ヲ出サハル片  
ハ債主ヨリ届出ツ其時ハ過失分散人トナリ  
罪ヲ得ル銘々勝手ニ分散人ト云フコト能ハス  
裁判所ニテソノ差引出入ヲ取調ヘタル上ニ  
テ分散ノ形状アル片ハ其方ハ分散ノ形状ア  
リト言渡ナリ

右分散ノ形状アリテ届出タル上殊分散人ト  
言渡サル、迄ハ自カラ其財産ヲ運用シテ可  
ナリト虽モ言渡サレタル上ニハ監財人立テ



本人ハ自カラ運用スル能ハス  
右ノ分界ニテソノ人ノ権利モ右ノ如ク連フ  
ナリ届出タルヨリ言渡サル、迄ハ凡ソ三日  
位ナリ  
監財人ハ分散人ノ為メノミヒアラス債主ノ  
為メニモ設ケ在ルナリ  
此監財人ハ分散人ト債主トノ間ニアリテ双  
方ノ名代トナルナリ  
分散言渡レノ済ミタル上ニミツノ事アリソ  
ノ事ハ一ニ三トツ、ク一モアリ又一又ハ二又  
ハ二三又三ニテ済ムトモアリ  
第一ノ一ハ「コレコルタ」ト云ヒテ衆債主亦  
寄り相談ノ上約束トナルマテノ一事

右亦寄相談ヲナストハ双方ノ為メニナルト  
エヘニ望ムトナリ  
右「コレコルダ」ハ債主亦寄約束ヲナス所以  
勸解ノ如キモノナリ  
ソノ亦寄ルトキニ分散人ニテ分散ニ至ル次  
弟ヲ述フルニ財主ニテ分散人ニ於テ廉耻ア  
ルカ又ハ才能アルカ又ハ掛方人ヨリ得ヘキ  
金額ヨリ多クアルトキハ分散人ヲ引立ル相  
談ヲナス但シ前文ニ及レタルモノ等ノ節ハ  
直ニニ分散スルトナリ  
又自分不束ナルトナクシテ人ノ為メニ分散  
トナルトアリタトヘハ甲ニ金ヲ借シ置クニ  
甲ヨリ乙ニ金ヲ借シ右乙ニテ分散トナル為



債主分散トナルトアリソノ時ハ債主ニテ  
甲ノ立行様ニ世話ヲナシテ遣ルトアリ  
分散トナルトキハ必ラス監財人財産目録ヲ  
作ルヘレソノ人物ノ帳カナルモノナレハ監  
財人ニテ衆債主ヘ對シ全額ノ二割ヲ拂ヒ其  
餘ハ年賦ニセント云フトキ衆債主ニテ分散  
人ハ不人物ナリ故ニ半高ヲ取り其半高ハ見  
加ラレト云フトモアリ  
以上ハ分散人ヨリ品數ヲ申立ルニ監財人ニ  
テ債主ヘ對シ發言ヲナシテ品ハ何々有之此  
負債ハ年賦等ニシテ本人ノ立行様ニシテ異  
レヨト云フトアリ  
衆債主ニテ分散人ヨリ申立タルコトク或ハ

懲アリ又ハ強情等ニテ同意スルトハ能ハサ  
ルトアリ故ニ法律上ニテモ必ラス同意セヨ  
トハナシタトヘハ債主二十人アラハ十一人  
同意ナレハヨシ借金高ノ四分ノ三丈ケ同意  
ナレハヨシ右ノ通り人ノ數ト金ノ高ト揃ハ  
サレハヨロシカラス  
通常ノトナラハ人ノ數衆キ方ヲ取ルナレ  
金ノ高ト人ノ數ト兩方ヲ合セテ言ヒタルハ  
注意シタルトナルヘレ  
如シ人ノ衆キ丈ケヲ取ラハ少數ヲ借シタル  
モノ丈ケ揃ヒテ多數ヲ借シタルモノ、迷惑  
トナルナリ如シ金高丈ケニテ極メタラハ多  
數ヲ借シタルモノ二人位ニテ決スレハ少數







ト約レタル為ナリトモ再ヒ潰レタルトキハ  
廉耻面目ニ関スルユヘニ刑人トナリ入獄ヲ  
命セラル、ナリタトヒ法律ニ依テ罰スルト  
モ「コンコルダ」ヲナスハ二度モ三度モ差支  
無之  
ソノ情ニヨリ罰セサルコトモアリ二度モ三  
度モ約束ヲ破ルユヘ気ヲ付ケル為ニ罰スル  
ナリ  
「コンコルダ」ハ裁判官ニテ言渡スカ  
コレコルダ」ハ未タ裁判官ヘハ持出サス  
右ハ約束レタル「」ヲ裁判所ヘ届ケ出ルカ  
其「コンタル」タル「」調「」タル上ニテ高法裁判所  
ヘ出ス「」ノ片裁判所ニテヨロシト書テ渡ス

此場合、於テ不都合ノトキハ裁判所ニテ聞  
濟ム「」ヲ肯ンセサル「」モアリ  
二度メ三度メニ至リテハ裁判所ニテ決シテ  
肯セス  
最初ノ債主ハ不動産モアリ又証人モアルユ  
ヘ多分ハ損ニナラス  
不動産アレハ最初ノ債主ノ損ニハナラスト  
モ凡万一無之時ハ證人アリ  
既ニ法律上ニテ引当ト見做スユヘ不動産ニ  
於テハ「コンコルダ」ニ入ルニ及ハス  
民事ニテハ何ノ故ニ「コンコルダ」ヲ為サハ  
ルヤ  
民事ハ食フ為メ計リナク直チニソノ財産ヲ



取ルノミ

高事ナレハ利ヲ得ルノ道アルユヘ此ノ如キ

トヲナレ大抵ノトハ押付ルトモアルナリ

民事ノ分散ニ於テモ時ニヨリ相談スルトモ

アレモ銘々ノ勝手自由ナリ

既に裁判所ニテモ開済ニ約束ノ調フタル上

ニソノ年賦第一ノ期ニ至リ約ニ違ヒ拂ハサ

レハソノ廉ニテ右ハ消滅スルナリ

萬一「コン」コル「ダ」ノ出来タル上ニ詐偽分散

ナルトノ発覚シタルトキハソノ一事ヲ以テ

取消トナル

元ヨリ詐偽ナルトヲ知リタルトキハ「コン」コ

ル「ダ」ニハナラズ故ニ「コン」コル「ダ」ヲナシ

タル日ヨリ消滅スルナリ

分散言渡ヨリ「コン」コル「ダ」ニ至ルマテノ間

ニ訴ヘノ起ルトアレハソノ時ハ分散人ヲ相

手取ルト能ハス監財人ヲ相手取ルナリ

萬一「コン」コル「ダ」ノ調ノハサルトキ又調ヒ

タリトモ詐偽等ノ知レテ裁判所ニテ肯シセ

サルトキハ第二ノ事ニ移ルナリ

今迄ノ間ハ別ニ名目ナシ之レヨリ後ノ事ハ

「エ」タ「デ」ユニ「ラ」ント云フ人ノ聚マリタルト云

フ義ナリ以下ハ分配會計ノ「ト」ニ至ルナリソ

ノ財産分配出入等ヲ任分ケスルナリ

ソノ間ニハ監財人居リテ受取渡レヲ為ス

一箇肝要ナルトヲ云ハシ



分散人ノ高物澤山アルニ一時ニ賣レハ下直  
ナリ故ニ監財人ニテ此品ヲ賣リ切ルマテハ  
分散人ニアラサル分ニナシ度ト願フトキ之  
レヲ許スニアリソノ氏ハ衆債主ホ寄リテ高  
ヒスルモノト者做スナリ

タトヘハ一ツノ製造場アラシニ澤山ノ品物  
ヲ一時ニ賣レハ下直ナリソノ時分散人ニテ  
ハ早ク元付ケ度ト思フナレト債主ニテ監財  
人ノ言ヲ聞キ尤ト思フ氏ハ相談ヲナシテ開  
店シテソロソト賣ルイモアリ

高賣ノ続クト続カサルトバ見定メハ甚々難  
シ故ニ衆債主ニテ相談ヲナスナリ  
ソノ相談ノ時ハ人ノ教モ金ノ高モ四分ノ三

ニ至ラサル可カラス最初ヨリ人ノ教ヲ多クス  
此相談ニ至リテハ初メヨリ一層重クナルコ  
ヘナリ

此相談ハ不意ノナリ元ト債主ノ集會ハ品  
ヲ取調ヘ配分セシトノ為メナリ然ルニソノ  
氏ニソロソロ賣ルノ相談トナルコトナリ

右等ノ場合ニテ当人ハ全ク関セスヤ又ハ監  
財人ニテ当人ニ代リテ申立ルヤ

第二ノ事ハ全ク監財人ニテナスナリ第一ノ  
事ノ時ハ当人モ頭ヲ出スナリ此監財人ハ則  
テ高人ニテ当人ヨリハ立派ニ仕分ノ出来ル  
モノナリ

如シ相談調フテ引続ク高ヒノ時ハ裁判所ニ



テモ関スレ氏弥分散トナルトキハ裁判所ニ  
テハ一切関セス

裁判所ニテハ相談ノ出来タル上ニテ聞濟ム  
ト聞濟マサルコアリ

更ニ餘論ヲ陳ヘレトス未タ知ラス緊要ナリヤ  
否

一事ニ注意セサルヘカラサルコアリタトヘ

ハ十五年專賣免許ヲ得タルモノソノ年限中

ニ分散人トナリタルトキソノ十五年間專賣

ノ權ヲ得セシムヘキカ又ハ製造品ノ庫中ニ

アル丈ケヲ賣ラシムヘキヤ右ハ十五年間

若シ故コ引続製造タトヘハ日本ニテ桑ヲ植ヘ

製絲ヲナサレトスルコソノ業ノ半ハニ至リ

潰レタルニ債主ニテソノ資本トナルヘキ諸

品アルニ於テハ後来ソノ業モツキ金モ取レ

ルト見込ニ債主ニテ兼知シテ業ヲナサレム

ルニ數年ノ後負債ヲ消却スルトキハ終ニ分

散セスレテ止ムコアリ此項第一ノ事コソコルダトシテ

監財人ニテ支配スル中ニソノ監財人モ潰レ

テ再ヒ分散スルトキハ監財人ニテ分散トナ

ルナリ

初相談ノ時四分ノ三ハ兼知スル人ニテソノ

餘ノ不兼知セシ人ニ平均ヲ掛ケテ損ヲナサ

シム

以上ニ項第二ノ事ニタリデユコナレノコトニ

基ツキテ云フ



專賣中他人ニテ右ヨリ一層上ヘノ發明ヲナ  
ストキハ此專賣ハ表徴シテ賣レサルアリ  
專賣中ソノ人ニアラサレハ出録サルモノヲ  
ル可シ右等ノ人ノ分散トナリタルトキハ如  
何スルヤ  
ソノ時ハ一箇ノ職人トナリ又ハ製造所ノ雇  
人トナル  
若シ此後高法ノ続カサルト見留メタルトキ  
ハ製シ出レタル品ヲ糶賣レ俵セテ專賣免許  
ヲモ受ルテアリ

第三ノ事

第三ニ於テ分配ヲ済マシ残り高何程ト書付  
ケテ作り夫々債主ヘ渡シ済ミトナル此所ニ

テ監財人ノ職ハ終ル

第三ノ事、於テハ瑣事ナレ氏之レヲ一ツノ  
事トナシ三ツノ事ニ分カタサルヲ得ス何ト  
ナレハ分散人ニテ身代ヲ取り直シタル時ハ  
債主銘々自カラ行テ取ルナリ故ニ残り高ノ  
書付ハ肝要ナリ之レニテ第三ノケ條畢ル  
其後銘々ニテ取ル節ニ至リテハ取り勝ナリ  
故ニ中ニハ取ルテノ出来サル債主モアリ  
分散シテ一品モナク監財人ヲ立ツルテモ出  
来サルテアリソノ時ハ銘々ヨリ借シタル金  
ト見切ルナリソノ名ヲ入願ノ不充分ノ結局  
テ、アクチース  
テ、アクチース  
ト云フナリ  
分散人富家ヲ相続スルトキハ債主ニテ銘々



行テ取ル  
分散人ノ跡ハ相続スルモノ絶テアルナ  
若シ相続スレハ債主ニテソノ相続人ヘ係ル  
ナリ

訴訟法會議筆記

七年五月三十日



七年五月三十日

今日ハ呼出状ノ分ハ説キ尽サントスソノ後ハ  
裁判言渡ト欠席裁判ノトヲ説キ次イテ控訴ノ  
事ヲ説カントス

訴訟法中ニ首タル訴訟ト添タル訴訟トアリ先  
ツ首タル分ヲ説キ次イテ添タル訴訟ヲ説カ  
ントス 勸解ノト 呼出ノト 裁判言渡ノト  
欠席裁判ノト 故障ヲ申立ルト 別人ヨリ故  
障ヲ申立ルト 控訴ノト 大審院へ控訴ノト  
ト順次ニ説カントス

過日家資分散ノトニ付テ三ツノ事アルトヲ説  
キタリソノ「コン」コル「ダ」ニナルノ間ト云フ  
ハ此法律書ニ無シ先ツ之レヲ説カン



訴訟法ハ一千八百六年ニ編集シ一千八百七年ヨリ施行セシモノナリ

商法ハ一千八百八年ニ編成セシモノナリ依テ此「コンコルダ」ハ訴訟法ニナキナリ

第六十九條 第七ハ六ツケキナク無之

第七 家資分散人ノ連結セシ債主ヲ呼出ス時ハ其管理者又ハ其住所ニ呼出状ヲ送達ス可シ

商法ニハ「コンコルダ」ニナル間ノ手續有之  
商法第四百九十ニ條ヲ見合可シ

連結セストモ即チ監財人ヲ呼出スヤ

債主連結セシテ只一人ナルトハ殆ントナキ

トナリ

第八 佛蘭西國內ニ分明ナル住所アラサル者ヲ

呼出ス時ハ其寄居スル場所ニ呼出状ヲ送達ス可

シ若シ其寄居スル場所ノ知レサル時ハ訴訟ヲ審

判スヘキ裁判所ノ訟庭ノ最大ノ門扉ヲ呼出状ノ

副本一通ヲ貼付シ又一通ヲ換事ニ送達シ換事其

正本ニ捺印ヲ為ス可シ

此一項中ニ難事アリ原告人ニテ何レノ裁判所

ヘ訴ヘテ可然ヤヲ見出スト能ハス

物件ニ付テノ訴訟ナレハソノ所在ノ地ノ裁判

所ヘ訴フルノ原則ナルユヘ面倒ナルトハ無之

佛國ニ於テモ住所住居ノ如レサルニ付キ使吏

ニテ間違アルト時ニ有之原告人ノ申立ニヨリ

直チニ執行フユヘナリ

ソノ住所住居ヲ穿サクスルハ知ル可キモノヲ



モ粗忽ニ執行ツテ欠席裁判トナリソノ後被告  
人ノ住所住居ノ知ル可キ確證アルカハ使吏ハ  
相当ノ罰ヲ受テソノ裁判入費ハ原告人ヨリ償  
却ス

タトヘハ東京ニ住スルモノアリ東京元ヨリ廣  
シ容易ニ尋子得可キニアラスソノ時ハ東京府  
并ニ各區ノ役所等ニ依頼シテ之ヲ尋子弥知  
レサルト定マリタル上ニ執行ス

タトヘハ緋商麵包店又ハ人足ボ夫、ソノ同業  
ノモノハ勿論穿鑿スヘシ

此穿サクハ使吏并ニ原告人ニテナス

タトヘハ旅居ニアルモノ又ハ一時下宿尋ノモ  
ノト契約ヲナスモノハソノ旅居并ニ下宿ノ主

人ニ訪ヒ行ク先キノ知レサルトキハソノ終執  
行ヲテ苦カラス右ハ東京ニ住居ヲ定メサルモ  
ノナレハナリ

タトヘハ辻輕業師又ハ田舎芝居ボノモノ一時  
東京ニ出テ興行シタルトキ等ハ直チニ執行若  
シカラス尤モ一應興行セシ隣家ヲ尋ヌルナリ

右等ハ固ヨリ東京ニ住居ノ定マラサルモノナ  
レハナリ

佛國ニ於テ住所ノ定マラサル婦人アリ借金ノ  
タマリタレハ直チニ他ヘ轉ス其宿シタル内ヲ

尋子テ得サレハ其終執行スルナリ但有名義人  
ノ如キハ格別ニシテ尋子得ルトモアルト虫モ

尋子得ルト甚少ナシ



右等ニ於テモ粗忽ニナス可カラサルモノナリ  
 故ニ法律ニ於テ保護シテ欠席裁判トナラサル  
 様ニ注意スルナリ  
 前文ノ如キ場合ニ於テ呼出シテ知ラサル為メ  
 ニ欠席裁判トナリタリトモソノ執行ノ以前ニ  
 知得スルトキハ故障ヲ申立ツルヲ得ルナリ  
 タトヒ欠席裁判ノ言渡ヲナストモ物品ナケレ  
 ハ執行フテ能ハスト雖氏百一何レヨリカ物品  
 ヲ尋子出ストキハ執行フテ得ルナリソノ執  
 行迄ニ被告人ニテ欠席裁判トナリタルヲ知  
 得スルトキハ即チ故障ヲ申立ルヲ得ル  
 到底現場ソノ人ヲ見出サ、ルハ執行フテ得  
 ス

被告人ニ於テハソノ執行ヲナス迄ニ故障ヲ申  
 立ツルナリ

ソノ訴訟入費ハ執行マテハ出サ、ルナリ  
 右ノ場合ニ於テ被告人ニテ他人ヘ金ヲ貸シタ  
 ルモノアルトキハ原告人ヨリソノ借リ主ヘ断  
 ハリソノ金ヲ差押ユルヲアリ欠席裁判トナリ  
 タルトキ原告人ニテソノ人ノ貸シ金アルヲ  
 知リタルトキハ法律上ニ於テ取押ノ手續ヲナ  
 シタル上八日間門扉ニ貼スソノ後ニハ原告人  
 ニテソノ金ヲ取ルナリ  
 右ノ執行済ミタル後被告人ニテ何ノ所口ニ住  
 居スルト云フノ證ヲ立テ全ク原告人ノ粗漏  
 且故意ヨリ出テタルトキハソノ入費ハ使吏ニテ



出スヤ又ハ原告人ニテ出スヤ

ソノ時ハ被告人ニテ原告人ニ掛ルナリソノ手續  
キハ一席ノ由ニ尽スル能ハス

ソノ時ニ於テ原告人ノ偽討ヨリ成リ使吏モ粗忽  
ニテ遂ニ前文ノ場ニ至リ故障ノ日限モ過キ上告

ノ日限モ済ミタルトキハ別ニ非常ノ道ヲ以テ故  
障ヲ申立ルルアリ之レヲオワーエキスタラテ凡

チ子ールト云フ  
又席裁判トナリタル後被告人出テ其宿所等容易

ニ尋子得ヘキテ原告人并使吏探索セサルノ證ア  
ルトキハ原告人ニ掛リ償金ヲ求ムルトモアリ併

シ此事甚稀レナリ  
以下本條ニ基ツキ何レノ裁判所ハ出ツヘキヤヲ説ク

人推ノ一ニ付テハ原告人ノ住所ノ裁判所ハ出ツ

ヘキハ原則ナリト雖モソノ人ノ住所住居ノ知レ  
サルニ於テハ何レノ裁判所何レノ換事ハ出スヘ

キヤ  
日本人ニテ佛国ヘ行キ佛国ニテ契約ヲナシソノ

後日本人ハ歸朝セシトキハ佛国ニテ裁判ヲナス  
ノ權アリト雖モ三百餘ヶ所ノ下等裁判所アリ何

レノ裁判所ニテ可ナルヤ  
一説ニハ巴里ニテ契約ヲナシタルトキハ再ヒソ

ノ地ヘ行カサルヲ得ス難滋ナリ又不愷ナリ  
時ニヨリ流事ニテノ契約等ハ何トス可キヤ一二

語中既ニ二三里モ行キ過ルナリ  
契約ヲナシタル地トスルトキハ原告被告トモ其



地ニ居ラス且原告人ハ入費ヲ掛ケ其地ヘ行カサ  
ルヲ得ス

又一説ニハ被告人ノ住所ノ知レサルトキハ原告  
人ノ住所ノ裁判所ト云フ説アリ

此説可ナリトス被告人ノ住所ノ裁判所ハ原則ナ  
レモ何レニシテモ一方ニテハ入費ヲ掛ケサルヲ

得サルモノナルエヘ双方ニテ入費ヲ掛ルヨリハ  
寧ロ一方ニ掛ル方宜シトス

法理ヨリ言ヘハ後説可ナリ実事ヨリ言ヘハ何レ  
ニテモ可ナリ何トナレハ契約ハ必ラス原告人ノ

住所ヘ来リテ為スモノナリ故ニ説トモニ行ハ  
レテ差支ナシ

一説ニ確定セス実況ニヨリニ説ノ内便利ナル方

ヲ用ユルトシテハ如何

二説ノ内何レニテモ原告人ノ擇ニ依テ為スト  
定ムルトキハ可ナリ

現地ハ定マリナシ裁判官ノ見込ニ任カス  
外ニ教説アリ

万一甲乙ギンナシニアリ巴里ハ書翰ヲ以テ金ヲ借  
リタルトキハソノ契約ハ何レノ地ニテ成リタル

ヤ  
右ハ貸シタル地ニテ出来タルニハアララス而地ニ  
テ出来タルモノナリ何トナレハ契約ハ双方兼諾

シテ成ルモノナレハナリ  
押金銀等ノ貸借ハ兼諾ノミニテハ契約ノ成ルモ

ノニアララス貸主ヨリ金ヲ借主ヘ送達セサレハ契



約ニハナラサルナリ

タトハハ佛人ト外國人ト結ビタル契約ニ付テノ

訴訟ハ巴里ニテ裁判ヲナスルハ民法第十四條ニ

正條アリ

故ニ前文ノ場合ニ於テウヰンナノ裁判所ハ出ツ

ルモノニアラス

故ニ原告人ノ住所ノ裁判所ト定マレナリ

若シ日本人佛ニアリ佛人ニ金ヲ借シタルニ付

テノ訴訟ハ佛ニアル内ハソノ住居ノ裁判所ニ訴

ルナリソノ日本人既ニ歸朝セシ上ニ訴フルトキ

ハ日本ノ法律改正ナリタル上ハ日本ノ裁判所ハ

訴フハシ現今ノ法律ニテハ能ハス

第九佛蘭西本国外ノ佛蘭西領地ニ居住スル者又

ハ外國ニ居住スル者ヲ呼出ス時ハ訴訟ヲ審判ス

ル裁判所ノ換事ニ呼出状ヲ送達シ其官吏其正本

ニ捺印ヲ為シテ其副本ヲ本国外ノ領地ニ居住ス

ル者ニ付テハ海軍事務宰相ニ送達シ外國ニ居住

スル者ニ付テハ外國事務宰相ニ送達ス可シ

佛ノ領地ナレトモ大陸外ニアルノ佛領地ヲ云フ即

チアルゼツサイゴンホ之レナリ

此項ノ如キ場合ニ於テハ換事ニ呼出状ヲ送達ス

一葉ハ換事ノ手ニアリ一葉ハ兩宰相ノ内ヨリ被

告人ニ送達ス

物權ナレハ佛國內ニテ裁判スルモアル可シ

若シ人権ナレハソノ人ノ住所ノ裁判所ハ訴ハサ

ルハカラス